

川崎市子ども・若者調査報告書 概要版

令和3年3月

川 崎 市

目次

第1章 調査の概要

(1) 調査の目的	1
(2) 調査の実施方法等	1
(3) 調査項目	1
(4) 調査票の回収状況	2
(5) 集計の視点	3
(6) 調査結果の見方・留意点	3

第2章 未就学の子を持つ保護者に関する調査結果

(1) 世帯の所得状況	4
(2) 暮らしの状況	5
(3) 保護者の精神状態や考え方	5
(4) 保護者の悩みごと	7
(5) 保護者の相談相手の有無等	9
(6) 保育所・幼稚園等の利用状況	11
(7) 保育所や幼稚園等を利用していない子どもの日中の過ごし方	13
(8) 保護者と子どもとの関わり	14

第3章 小学生・中学生の子を持つ保護者に関する調査結果

(1) 世帯の所得状況	15
(2) 暮らしの状況	16
(3) 保護者の精神状態や考え方	16
(4) 保護者の悩みごと	19
(5) 保護者の相談相手の有無等	22
(6) 保護者と子どもとの関わり	24
(7) 子どもに対する将来展望	29

第4章 小学生・中学生に関する調査結果

(1) 基本的生活習慣	31
(2) 相談相手の有無	33
(3) 学習状況	34
(4) 子どもの精神状態や考え方	37
(5) 将来展望	40

第5章 若者向けアンケートの結果

(1) 若者の属性	41
(2) 現在の関心ごと	42
(3) 経済的な生活状況	43
(4) 進学に関する希望	44
(5) 理想とする生き方	45
(6) つらい経験	46
(7) 相談相手の有無	47
(8) 居場所	48

第 1 章 調査の概要

(1) 調査の目的

川崎市の子ども・若者や子育て家庭を対象に、生活状況や生活意識、行政に対する意識等についての調査を多面的に調査することにより、「第2期川崎市子ども・若者の未来応援プラン」策定（令和3年度予定）の際の基礎資料とすることを目的としている。

(2) 調査の実施方法等

ア 調査対象者、対象者数、配布方法等

区分	調査対象	対象者数	配布方法	回収方法
調査Ⅰ	0～6歳の子を持つ親	3,000 人	郵送	郵送
調査Ⅱ	小学2年生の子を持つ親	3,295 人	学校配布	学校回収
	小学5年生の子ども	3,105 人	学校配布	学校回収
	小学5年生の子を持つ親	3,105 人	学校配布	学校回収
	中学2年生の子ども	3,482 人	学校配布	学校回収
	中学2年生の子を持つ親	3,482 人	学校配布	学校回収
調査Ⅲ	16～30歳の子ども・若者	3,000 人	郵送	WEB回答

※ 調査Ⅰ及び調査Ⅲの対象者については、令和2年10月15日時点の川崎市住民基本台帳から無作為抽出した。

※ 調査Ⅱの対象者については、区ごとに在籍数等を勘案し、無作為抽出した学校の対象学年（小学2年生、小学5年生及び中学2年生）の全学級に配布した。

※ 調査Ⅱのうち、子ども本人も対象としている調査については、親と子は同一世帯を対象とした。

イ 調査期間

令和2年11月16日から令和2年12月7日

(3) 調査項目

ア 保護者に対する調査項目 ※調査Ⅰ・Ⅱ

① 基本情報

世帯人員、居住区・年数、生活状況、学歴、就労・所得状況など

② 利用施設、子育て情報 ※調査Ⅰのみ

日中の預け先、利用している子育てサービス、子育て情報など

③ 子どもの日常生活・学校生活

子どもの生活習慣、放課後の過ごし方など

④ 子どもとの関わり方や子どもの将来展望

子どもとの関わり方、希望する学歴（調査Ⅱのみ）、希望する働き方（調査Ⅱのみ）など

⑤ 子育てに関する悩みや現在の気持ち

生活費や子どもの発達、将来等に関する悩み、保護者の精神状態など

⑥ 新型コロナウイルスによる影響

新型コロナウイルス感染前後の子ども及び保護者の状況

イ 子ども（小５・中２）に対する調査項目 ※調査Ⅱ

① 基本情報

性別、居住区

② 日常生活・学校生活

生活習慣、学習習慣、放課後の過ごし方（居場所、部活動等の有無）、インターネット利用状況（中２のみ）など

③ 将来展望や現在の気持ち

希望する学歴、将来の夢、精神状態など

④ 新型コロナウイルスによる影響

学校休校時の過ごし方

ウ 子ども・若者（16～30 歳）に対する調査項目 ※調査Ⅲ

① 基本情報

性別、居住区、学歴・所属

② 日常生活等

地域活動等への参加状況、スマートフォン等の利用状況、生活状況など

③ 将来展望や現在の気持ち

希望する学歴、理想とする生き方や職業観、自己肯定感や現在の関心ごと、過去の経験、悩みごとの相談先、精神状態など

④ その他

施設の利用状況、「居場所」の有無、コロナウイルス感染による影響など

（４）調査票の回収状況

有効回答数、有効回答率は以下のとおりである。

区分	調査対象	配布数	有効回答数	有効回答率
調査Ⅰ	0～6 歳の子を持つ親	3,000 人	2,223 人	74.1%
調査Ⅲ	16～30 歳の子ども・若者	3,000 人	1,184 人	39.5%

区分	調査対象	配布数	有効回答数	マッチング人数 (マッチング率)
			有効回答率	
調査Ⅱ	小学２年生の子を持つ親	3,295 人	2,839 人	
			86.2%	
	小学５年生の子ども	3,105 人	2,638 人	2,615 人 (84.2%)
			85.0%	
	小学５年生の子を持つ親	3,105 人	2,633 人	
			84.8%	
	中学２年生の子ども	3,482 人	2,811 人	2,800 人 (80.4%)
			80.7%	
	中学２年生の子を持つ親	3,482 人	2,825 人	
			81.1%	

(5) 集計の視点

ア 所得分類の考え方

本報告書では、世帯の年間所得合計額（いわゆる可処分所得¹）について、平成 30 年度国民生活基礎調査による等価可処分所得²の中央値（254 万円）及び貧困線³（127 万円）を基準に、貧困線未満の等価可処分所得の世帯を「分類Ⅰ」、貧困線以上等価可処分所得の中央値未満の世帯を「分類Ⅱ」、中央値以上の等価可処分所得の世帯を「分類Ⅲ」の 3 つの区分に分類した。

なお、本調査における等価可処分所得の算出にあたっては、選択肢の金額に幅があるため、選択肢の中央値を平均値とし、1,000 万円以上と回答したものは一律「1,000 万円」として計算した⁴。（例えば、世帯人員が 4 人で、本調査で回答した年間所得合計額が「500 万円～550 万円未満」の場合、等価可処分所得は「262.5 万円」であり、「分類Ⅲ」に該当する。）

●平成 30 年度国民生活基礎調査に基づいた所得分類

分類Ⅰ (貧困線未満)	分類Ⅱ (貧困線以上中央値未満)	分類Ⅲ (中央値以上)
127 万円未満	127 万円以上 254 万円未満	254 万円以上

(6) 調査結果の見方・留意点

- ① 図表中の「n」（number of case の略）は各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。
- ② 図表中の「MA」（Multiple Answer の略）はあてはまる選択肢すべてに○をつける設問である。
- ③ 図表中の「SA」（Single Answer の略）は最もあてはまる選択肢一つを選んで○をつける設問である。
- ④ 集計は百分率とし、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても 100.0%にならない場合がある。
- ⑤ 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると 100.0%を超えることがある。

¹ 可処分所得とは、収入から税金・社会保険料等を差し引き、手当等を加えた、いわゆる手取り収入をいう。

² 等価可処分所得とは、世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得をいう。

³ 国民生活基礎調査による貧困線とは、等価可処分所得の中央値の半分の額をいう。貧困線の算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づいている。なお、貧困線を下回る等価可処分所得に該当する者の割合を相対的貧困率という。

⁴ 本調査では、アンケート調査票で世帯全体の手取り収入額について、21 の選択肢（「50 万円未満」から「1,000 万円以上」まで。選択肢の幅は 50 万円単位）を設定し、いずれに該当するかを回答していただいた。設問については、内閣府「令和元年度子供の貧困実態調査に関する研究報告書」記載の共通調査項目である。

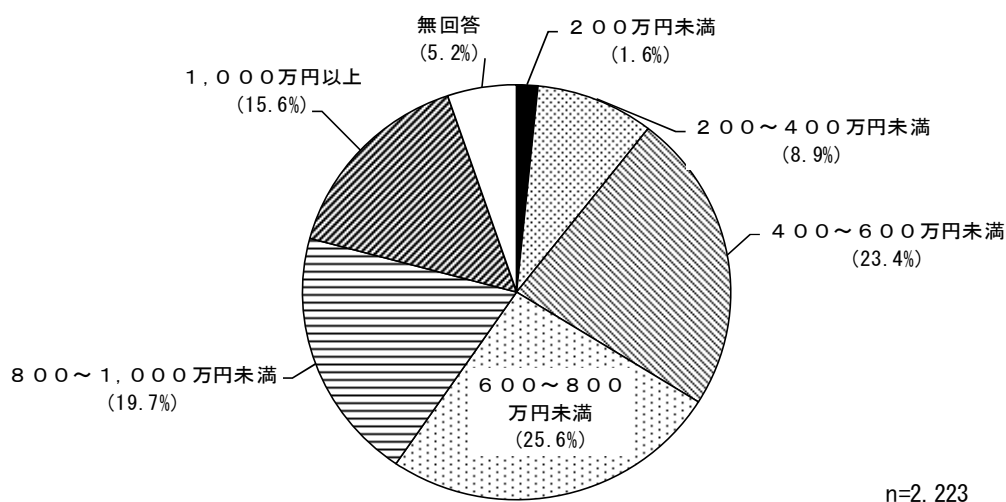
第2章 未就学の子を持つ保護者に関する調査結果

(1) 世帯の所得状況

① 世帯の年間所得合計額【問31】(SA)

世帯の年間所得合計額¹を聞いたところ、「600～800 万円未満」が 25.6%で最も高く、次いで「400～600 万円未満」が 23.4%、「800～1,000 万円未満」が 19.7%となっている。

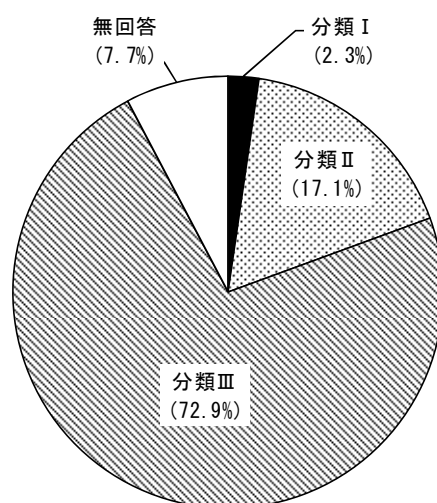
【図表 2-1】世帯の年間所得合計額



② 所得分類【問31】(SA)

所得分類²をみると、「分類Ⅰ」が 2.3%、「分類Ⅱ」が 17.1%、「分類Ⅲ」が 72.9%となっている。

【図表 2-2】所得分類



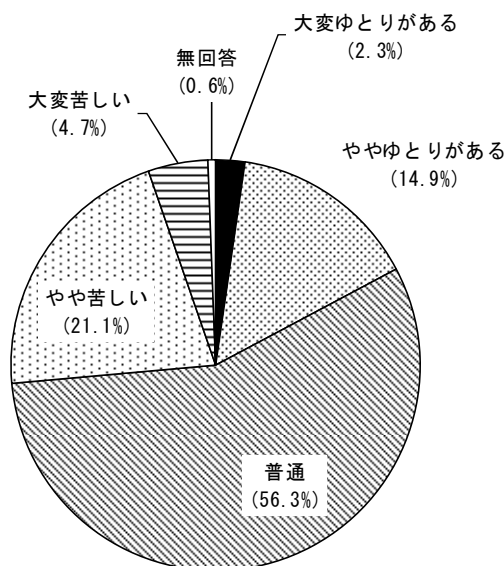
¹世帯全体の前年（平成31年1月～令和元年12月までの1年間）の手取り収入額について、21の選択肢（「50 万円未満」から「1,000 万円以上」まで。選択肢の幅は50 万円単位）から選択

² 分類Ⅰ（貧困線以下：127 万円以下）、分類Ⅱ（貧困線以上中央値以下：127 万円以上 254 万円以下）、分類Ⅲ（中央値以上：254 万円以上）

(2) 暮らしの状況【問 32】(SA)

現在の暮らしの状況を聞いたところ、「普通」が 56.3%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 21.1%、「ややゆとりがある」が 14.9%となっている。

【図表 2-3】暮らしの状況



n=2, 223

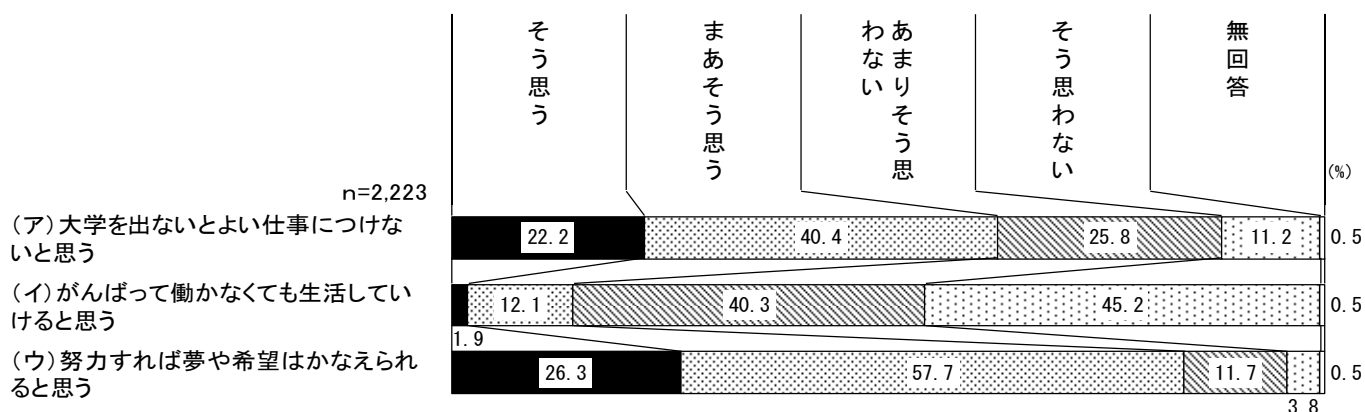
(3) 保護者の精神状態や考え方

ア 将来に対する考え方など【問 8】(SA)

ある考えに対しどう思うかを聞いたところ、『大学を出ないとよい仕事につけないと思う』について、「そう思う」(22.2%)と「まあそう思う」(40.4%)を足し合わせた割合は 62.6%、「あまりそう思わない」(25.8%)と「そう思わない」(11.2%)を足し合わせた割合は 37.0%となっている。また、『努力すれば夢や希望はかなえられると思う』について、「そう思う」(26.3%)と「まあそう思う」(57.7%)を足し合わせた割合は 84.0%、「あまりそう思わない」(11.7%)と「そう思わない」(3.8%)を足し合わせた割合は 15.5%となっている。

一方で、『がんばって働かなくても生活していけると思う』について、「そう思う」(1.9%)と「まあそう思う」(40.3%)を足し合わせた割合は 42.2%がとなっており、「あまりそう思わない」(45.2%)と「そう思わない」(11.7%)を足し合わせた割合は 56.9%となっている。

【図表 2-4】将来に対する考え方

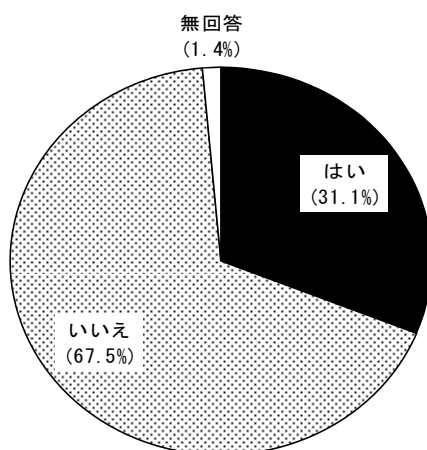


イ 今後の子どもの出産希望

① 出産希望【問 27】(SA)

新たに子どもを出産する希望があるか聞いたところ、「はい」が 31.1%、「いいえ」が 67.5%となっている。

【図表 2-5】 出産希望

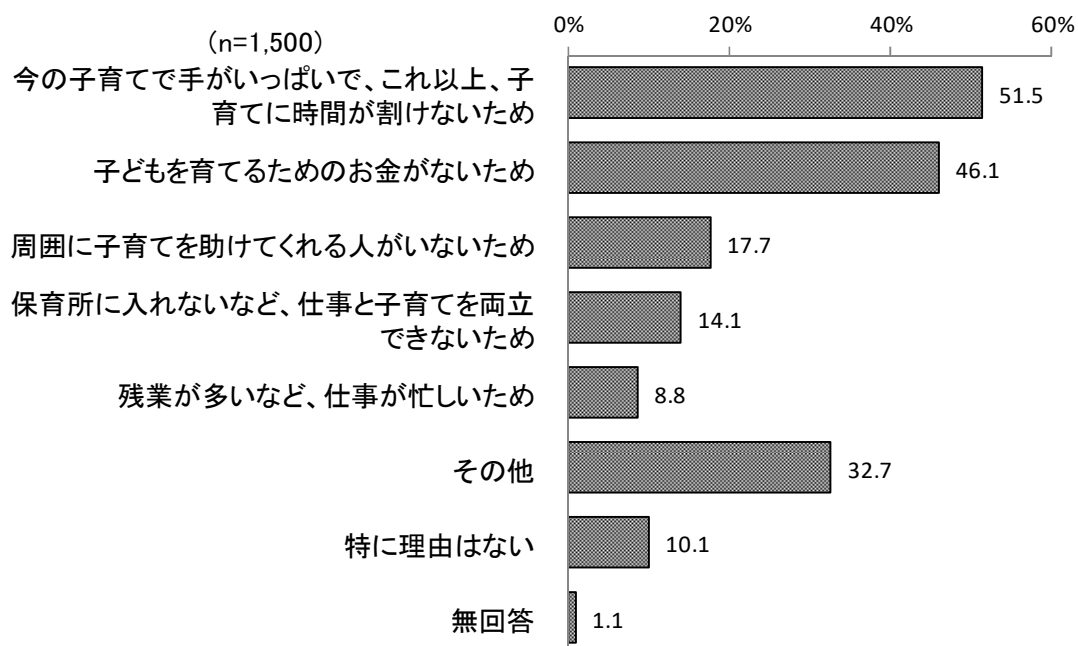


n=2, 223

② 新たに子どもを望まない理由【問 27-2】(MA)

新たに子どもを出産することを望まない方に、その理由を複数回答で聞いたところ、「今の子育てで手がいっぱい、これ以上、子育てに時間が割けないため」が 51.5%で最も高く、次いで「子どもを育てるためのお金がないため」が 46.1%、「周囲に子育てを助けてくれる人がいないため」が 17.7%となっている。

【図表 2-6】 新たに子どもを望まない理由（複数回答）



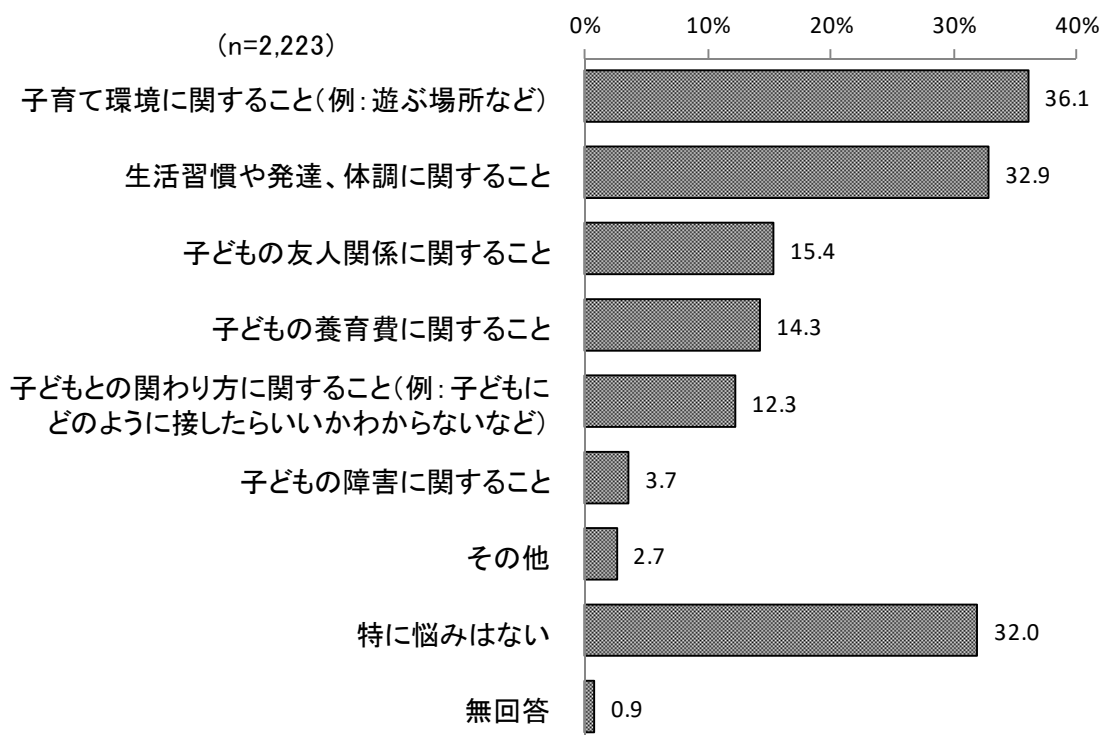
(4) 保護者の悩みごと

ア 子どもに関する悩み

① 子ども・子育てに関する悩み【問 14】(MA)

子ども・子育てに関する悩みを複数回答で聞いたところ、「特に悩みはない」と回答した世帯が 32.0% となっている一方で、悩みがあると回答した世帯においては、「子育て環境に関すること（例：遊ぶ場所など）」が 36.1% で最も高く、次いで「生活習慣や発達、体調に関すること」が 32.9%、「子どもの友人関係に関すること」が 15.4% となっている。

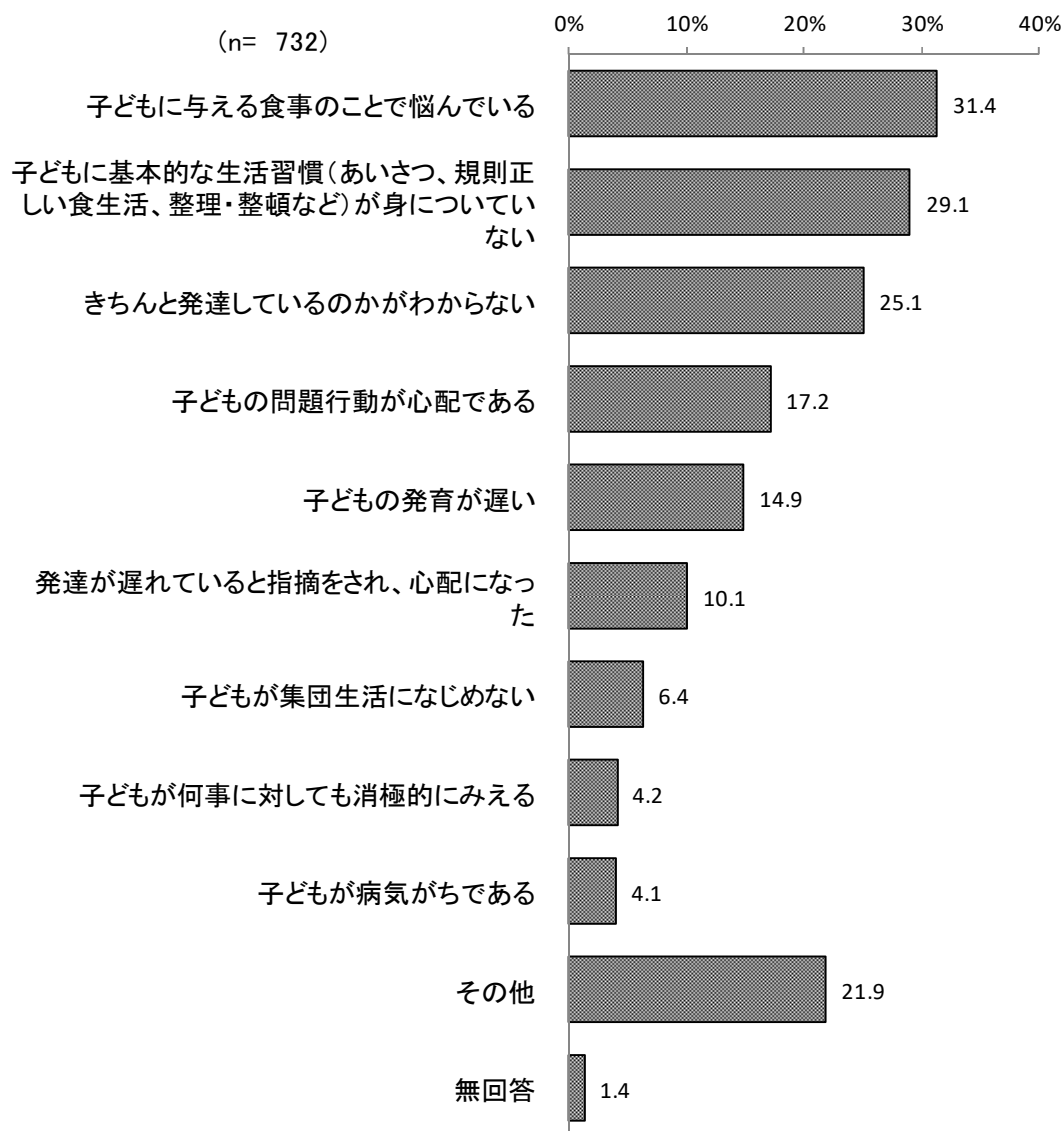
【図表 2-7】子ども・子育てに関する悩み（複数回答）



② 子どもの生活習慣や発達、体調に関する心配ごと・悩み【問 14-2】(MA)

子ども・子育てに関する悩みについて、「生活習慣や発達、体調に関すること」と回答した方に、心配ごと・悩みの内容を複数回答で聞いたところ、「子どもに与える食事のことで悩んでいる」が31.4%で最も高く、次いで「子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身についていない」が29.1%、「きちんと発達しているのかがわからない」が25.1%となっている。

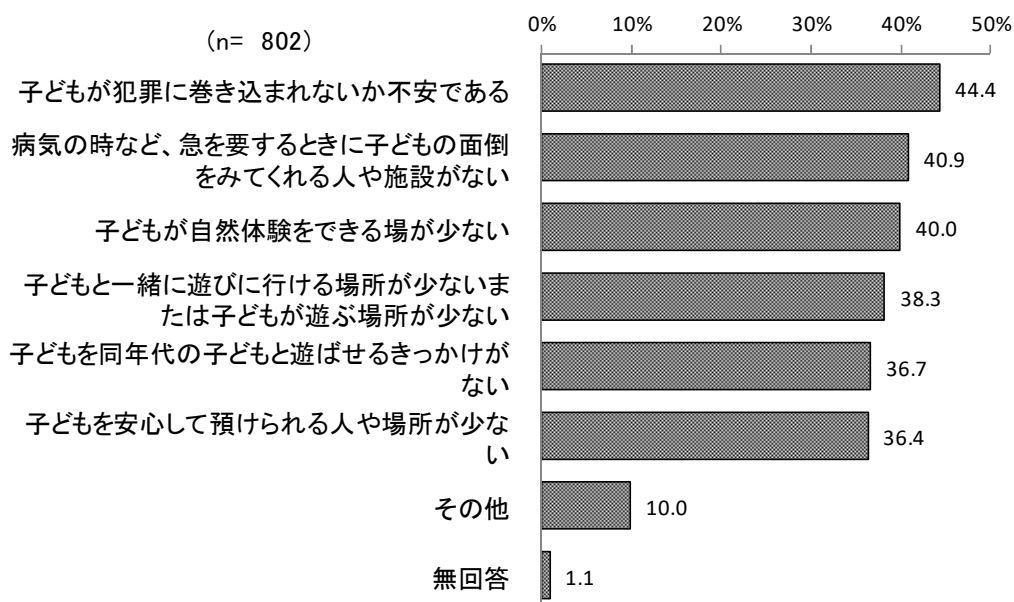
【図表 2-8】子どもの生活習慣や発達、体調に関する心配ごと・悩み（複数回答）



イ 子育て環境に関する心配ごと・悩み【問 14-3】(MA)

子ども・子育てに関する悩みについて、「子育て環境に関すること（例：遊ぶ場所など）」と回答した方に、心配ごと・悩みの内容を複数回答で聞いたところ、「子どもが犯罪に巻き込まれないか不安である」が 44.4%で最も高く、次いで「病気の時など、急を要するときに子どもの面倒をみってくれる人や施設がない」が 40.9%、「子どもが自然体験をできる場が少ない」が 40.0%となっている。

【図表 2-9】子育て環境に関する心配ごと・悩み（複数回答）

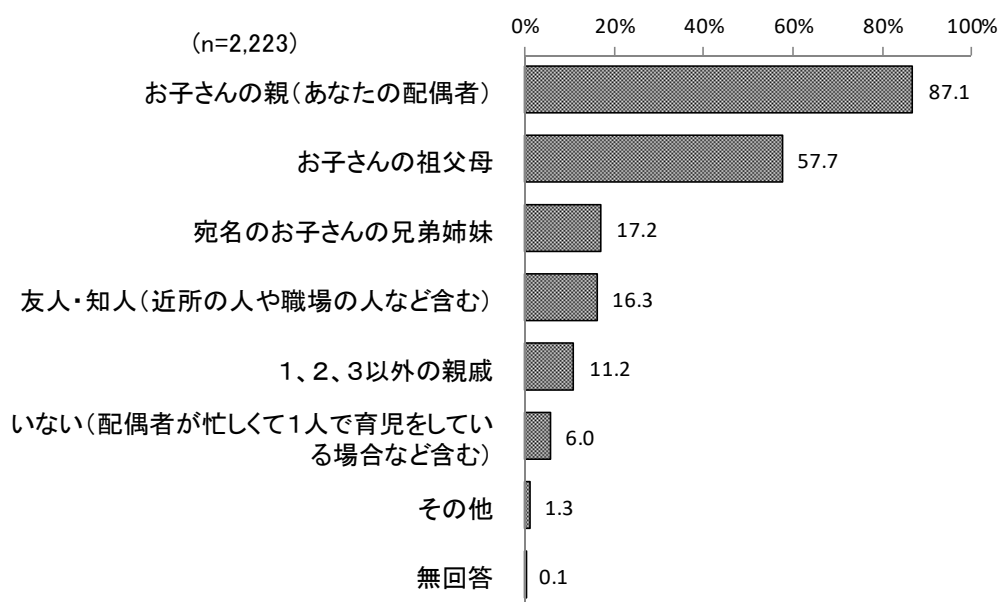


(5) 保護者の相談相手の有無等

ア 子育て協力者の有無【問 9】(MA)

ふだん子育てに協力してくれる人を複数回答で聞いたところ、「お子さんの親（あなたの配偶者）」が 87.1%で最も高く、次いで「お子さんの祖父母」が 57.7%、「宛名のお子さんの兄弟姉妹」が 17.2%となっている。

【図表 2-10】子育て協力者の有無（複数回答）

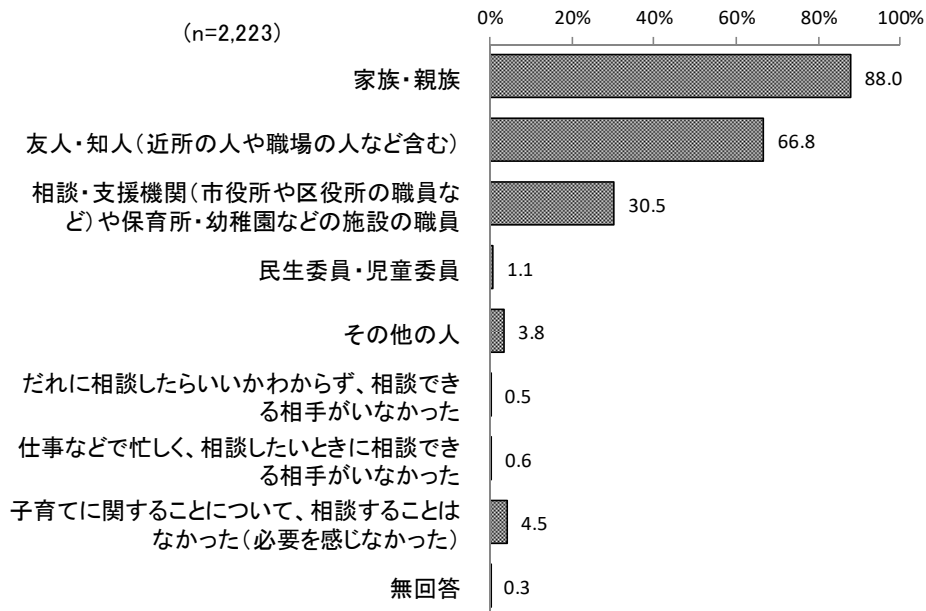


イ 相談相手の有無

① 子育てに関する相談先【問 11a】(MA)

子育てに関する相談先を複数回答で聞いたところ、「家族・親族」が 88.0%で最も高く、次いで「友人・知人（近所の人や職場の人など含む）」が 66.8%、「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や保育所・幼稚園などの施設の職員」が 30.5%となっている。

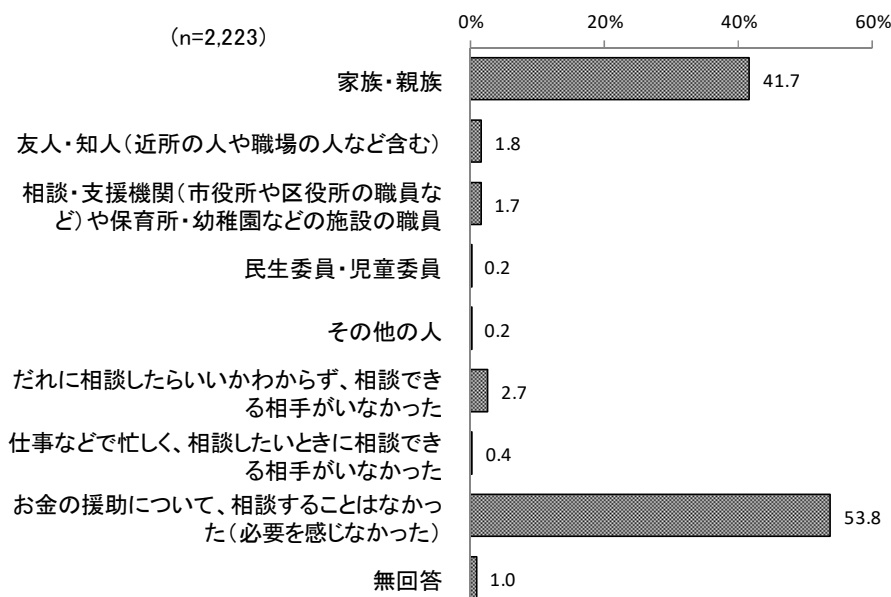
【図表 2-11】子育てに関する相談先（複数回答）



② いざという時のお金の援助相談先【問 11b】(MA)

いざという時のお金の援助相談先を複数回答で聞いたところ、「家族・親族」が 41.7%で最も高く、「お金の援助について、相談することはなかった（必要を感じなかった）」が 53.8%となっている。

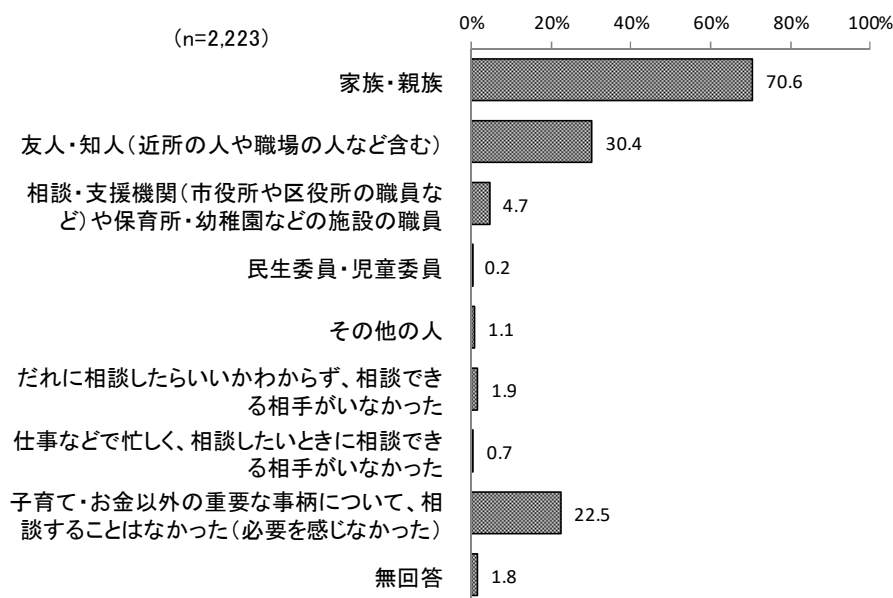
【図表 2-12】いざという時のお金の援助相談先（複数回答）



③ 子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先【問 11c】(MA)

子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先を複数回答で聞いたところ、「家族・親族」が70.6%で最も高く、次いで「友人・知人(近所の人や職場の人など含む)」が30.4%となっており、「子育て・お金以外の重要な事柄について、相談することはなかった(必要を感じなかった)」が22.5%となっている。

【図表 2-13】子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先(複数回答)



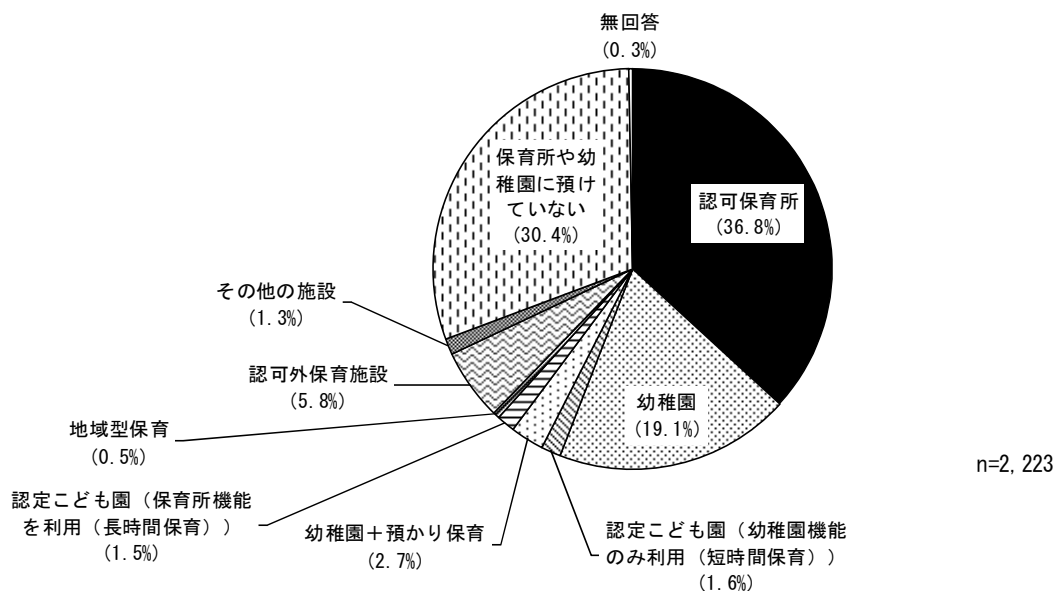
(6) 保育所・幼稚園等の利用状況

ア 平日の日中に主に利用している施設等【問 1】(SA)

平日の日中に主に利用している施設を聞いたところ、「認可保育所」が36.8%で最も高く、次いで「幼稚園」が19.1%、「認可外保育施設」が5.8%となっている。

一方、「保育所や幼稚園に預けていない」が30.4%となっている。

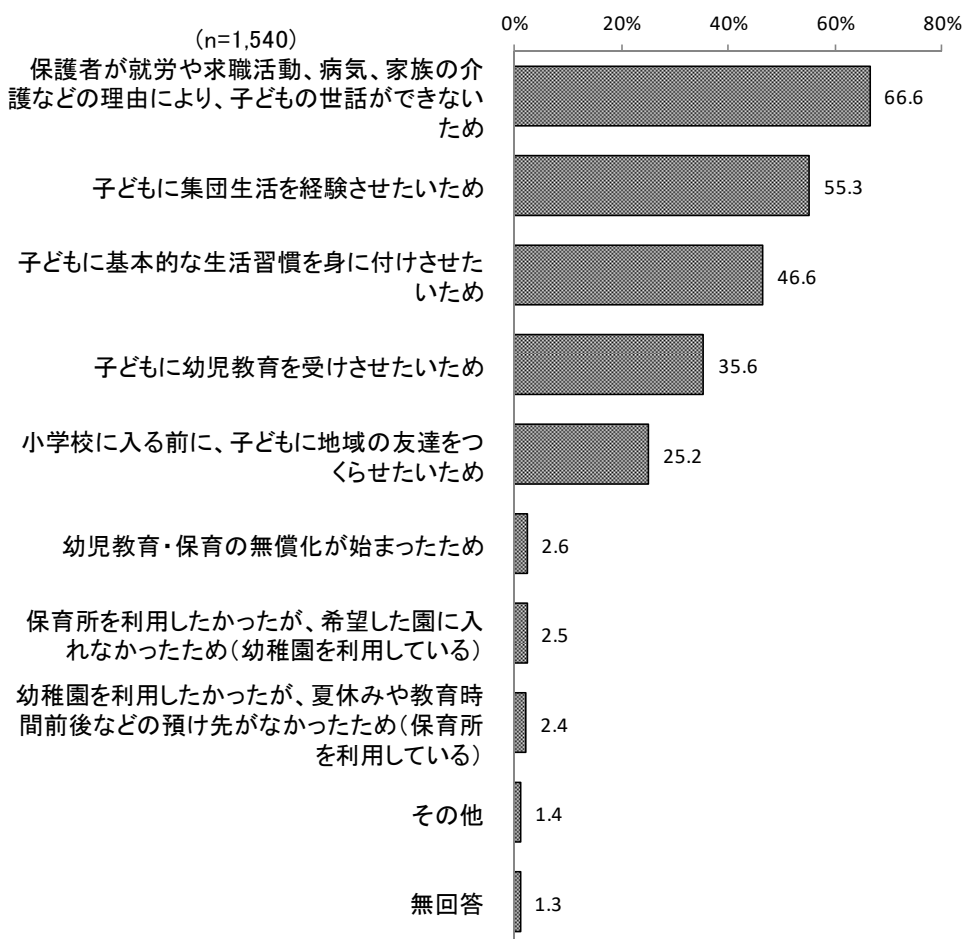
【図表 2-14】平日の日中に主に利用している施設等



イ 保育所・幼稚園等に預ける理由【問2】(MA)

子どもを保育所や幼稚園等に預けていると回答した方に、保育所・幼稚園等を利用している理由を複数回答で聞いたところ、「保護者が就労や求職活動、病気、家族の介護などの理由により、子どもの世話ができないため」が66.6%で最も高く、次いで「子どもに集団生活を経験させたいため」が55.3%、「子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせたいため」が46.6%となっている。

【図表 2-15】 保育所・幼稚園等に預ける理由（複数回答）

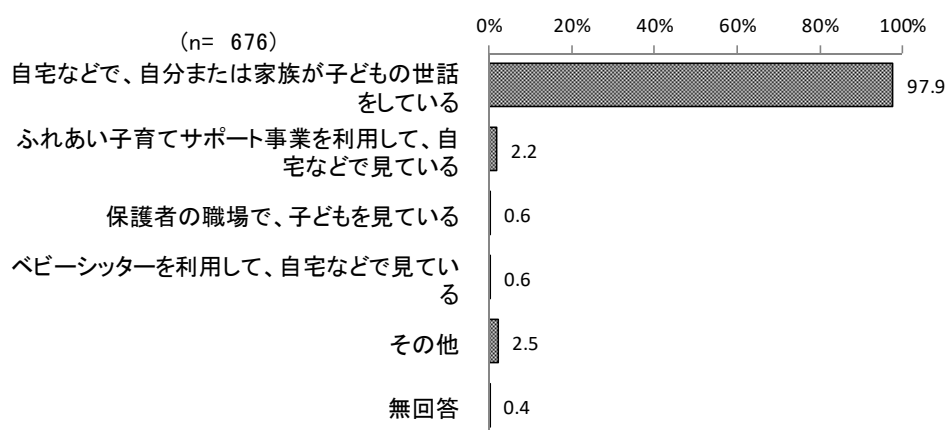


(7) 保育所や幼稚園等を利用していない子どもの日中の過ごし方

① 保育所や幼稚園等を利用していない子どもの日中の過ごし方【問1-2】(MA)

子どもを保育所や幼稚園等に預けていないと回答した方に、子どもをどのように育てているか複数回答で聞いたところ、「自宅などで、自分または家族が子どもの世話をしている」が97.9%で最も高く、次いで「ふれあい子育てサポート事業を利用して、自宅などで見ている」が2.2%、「保護者の職場で、子どもを見ている」が0.6%となっている。

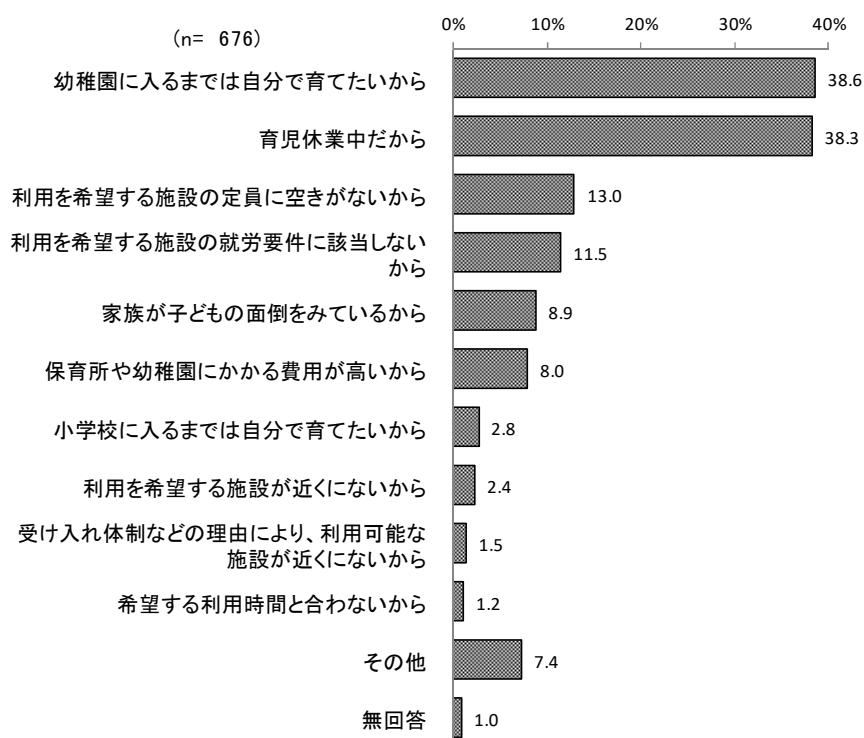
【図表 2-16】 保育所や幼稚園等を利用していない子どもの日中の過ごし方（複数回答）



② 保育所・幼稚園等を利用していない理由【問1-3】(MA)

子どもを保育所や幼稚園等に預けていないと回答した方に、保育所・幼稚園等を利用していない理由を複数回答で聞いたところ、「幼稚園に入るまでは自分で育てたいから」が38.6%で最も高く、次いで「育児休業中だから」が38.3%、「利用を希望する施設の定員に空きがないから」が13.0%となっている。

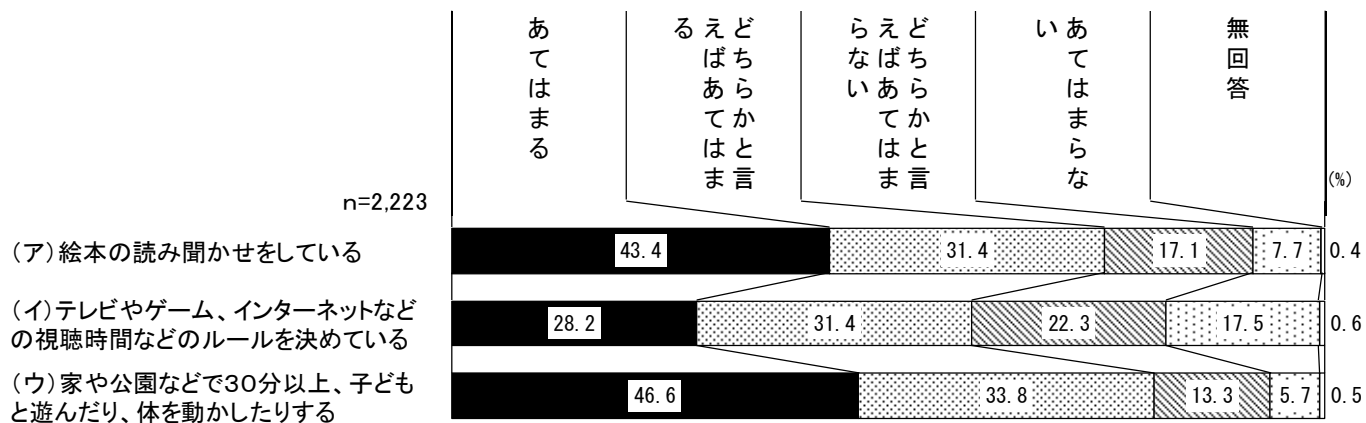
【図表 2-17】 保育所・幼稚園等を利用していない理由（複数回答）



(8) 保護者と子どもとの関わり【問6】(SA)

子どもとの関わり方を聞いたところ、「あてはまる」と「どちらかと言えばあてはまる」を足し合わせた割合は『家や公園などで30分以上、子どもと遊んだり、体を動かしたりする』が80.4%で最も高く、「どちらかと言えばあてはまらない」と「あてはまらない」を足し合わせた割合は『テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている』が39.8%で最も高くなっている。

【図表 2-18】保護者と子どもとの関わり



第3章 小学生・中学生の子を持つ保護者に関する調査結果

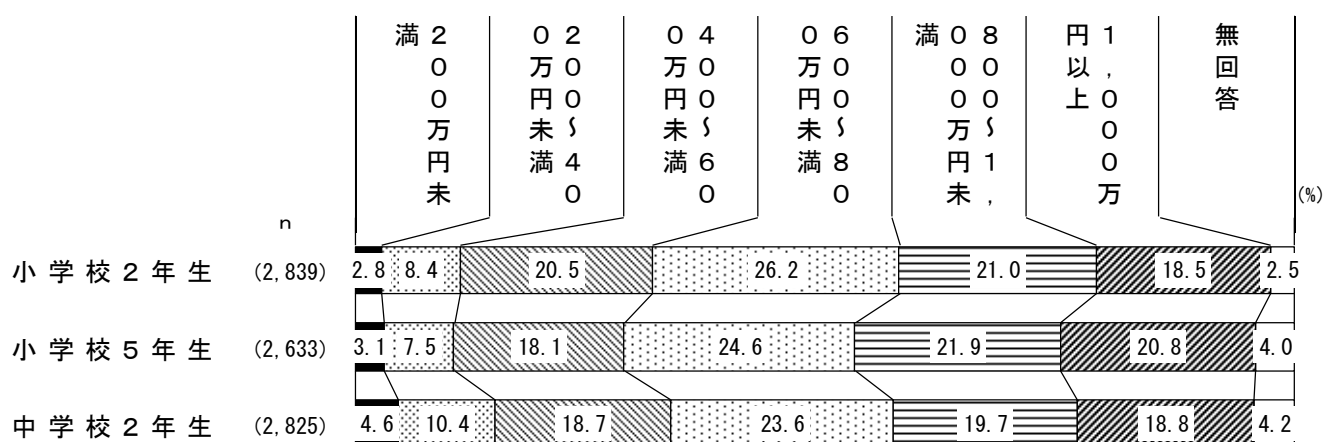
(1) 世帯の所得状況

① 世帯の年間所得合計額【小学・問35、中学・問33】(SA)

世帯の年間所得合計額¹を聞いたところ、小学2年生のいる世帯では「600～800万円未満」が26.2%で最も高く、次いで「800～1,000万円未満」が21.0%、「400～600万円未満」が20.5%となっている。

小学5年生のいる世帯、中学2年生のいる世帯では「600～800万円未満」(小学5年生：24.6%、中学2年生：23.6%)が最も高く、次いで「800～1,000万円未満」(小学5年生：21.9%、中学2年生：19.7%)、「1,000万円以上」(小学5年生：20.8%、中学2年生：18.8%)となっている。

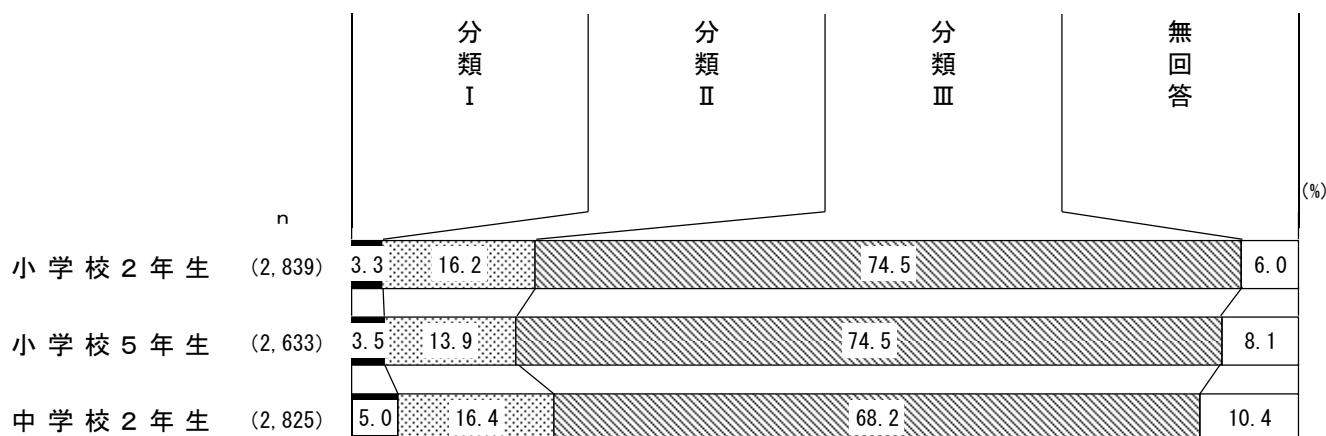
【図表 3-1】世帯の年間所得合計額



② 所得分類【小学・問35、中学・問33】(SA)

所得分類²をみると、いずれの学年のいる世帯でも「分類Ⅲ」(小学2年生：74.5%、小学5年生：74.5%、中学2年生：68.2%)が最も高く、次いで「分類Ⅱ」(小学2年生：16.2%、小学5年生：13.9%、中学2年生：16.4%)、「分類Ⅰ」(小学2年生：3.3%、小学5年生：3.5%、中学2年生：5.0%)となっている。

【図表 3-2】所得分類



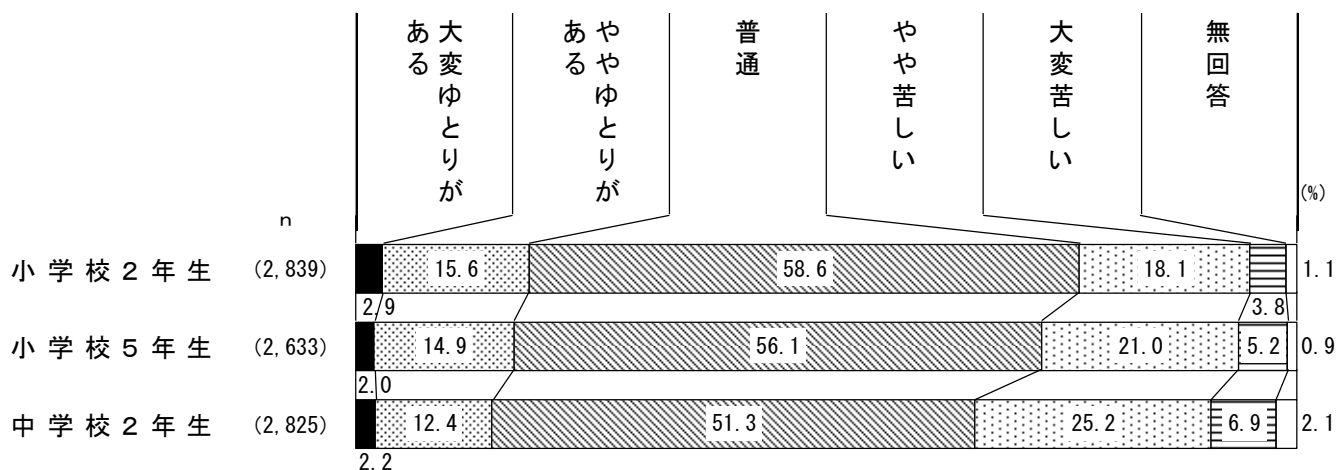
¹世帯全体の前年(平成31年1月～令和元年12月までの1年間)の手取り収入額について、21の選択肢(「50万円未満」から「1,000万円以上」まで。選択肢の幅は50万円単位)から選択

²分類Ⅰ(貧困線以下：127万円以下)、分類Ⅱ(貧困線以上中央値以下：127万円以上254万円以下)、分類Ⅲ(中央値以上：254万円以上)

(2) 暮らしの状況【小学・問 36、中学・問 34】(SA)

現在の暮らしの状況を聞いたところ、いずれの学年のいる世帯でも「普通」(小学2年生：58.6%、小学5年生：56.1%、中学2年生：51.3%)が最も高くなっている。また、いずれの学年のいる世帯でも「やや苦しい」と「大変苦しい」を合わせた『苦しい』(小学2年生：21.9%、小学5年生：26.2%、中学2年生：32.1%)が「大変ゆとりがある」と「ややゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』(小学2年生：18.5%、小学5年生：16.9%、中学2年生：14.6%)を上回っている。

【図表 3-3】暮らしの状況

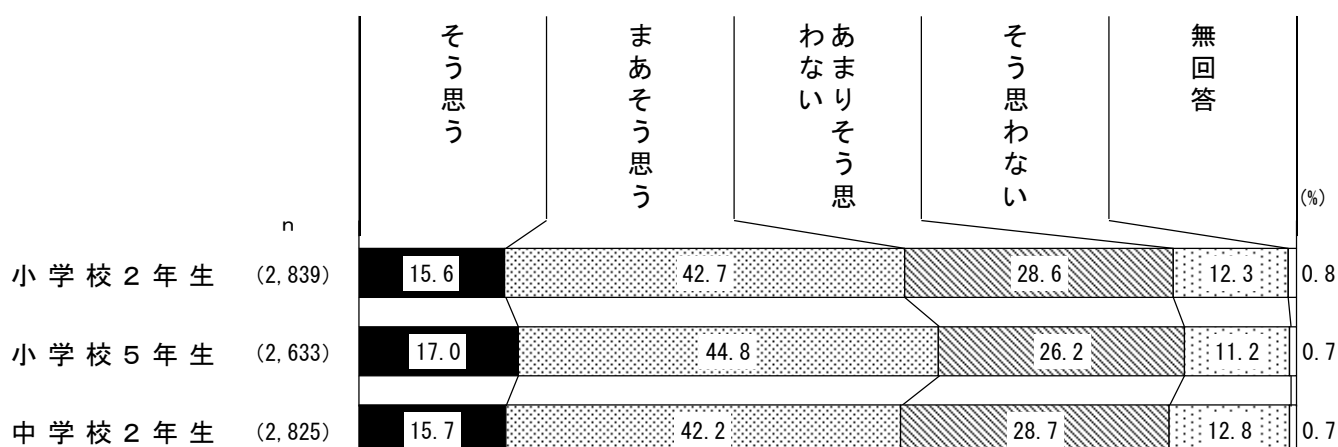


(3) 保護者の精神状態や考え方

ア 将来に対する考え方など【小学・問 15、中学・問 14】(SA)

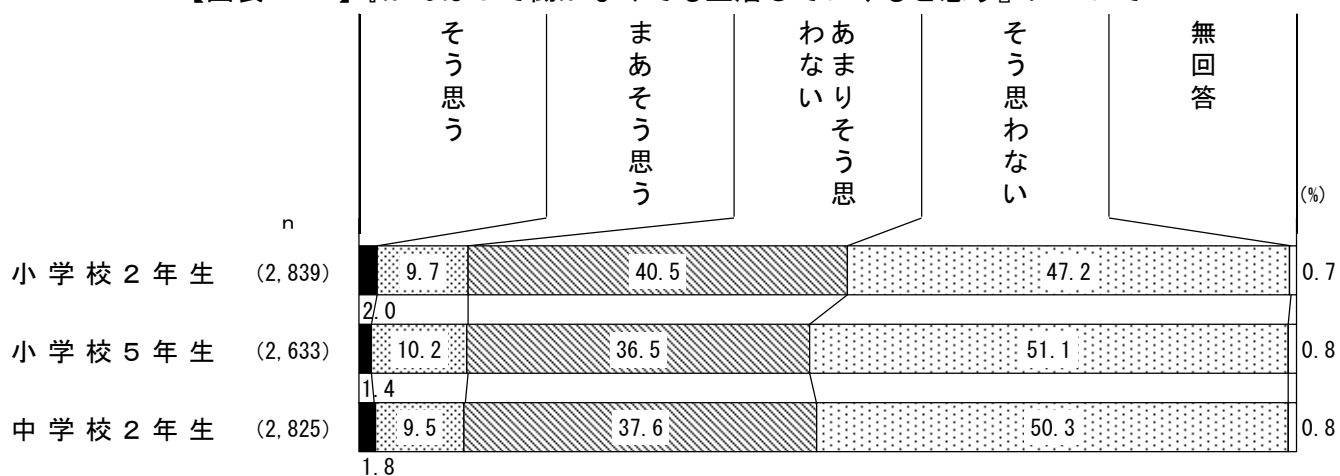
『大学を出ないとよい仕事につけないと思う』についてどう思うか聞いたところ、いずれの学年でも「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合が「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足し合わせた割合を上回っている。

【図表 3-4】『大学を出ないとよい仕事につけないと思う』について



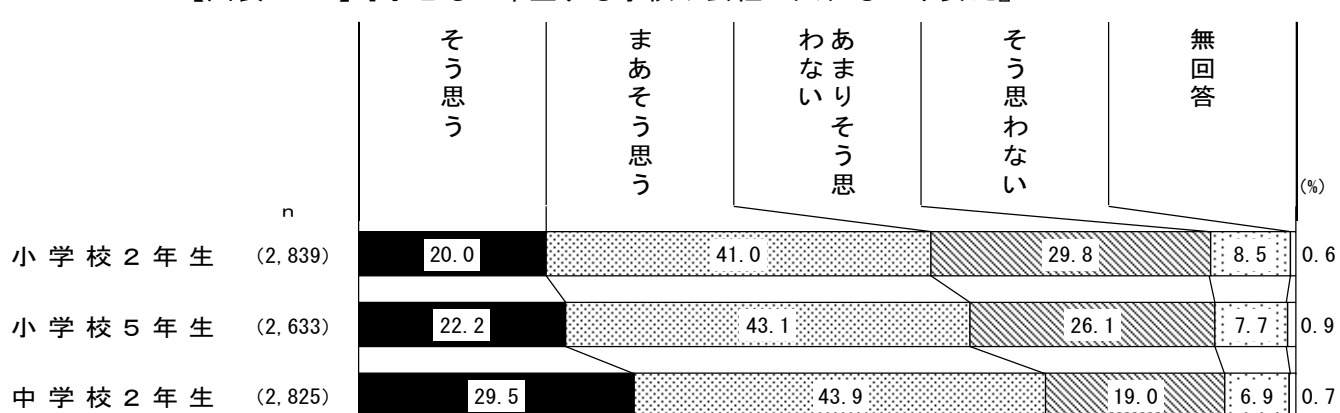
『がんばって働かなくても生活していけると思う』についてどう思うか聞いたところ、いずれの学年でも「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合が「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合を上回っている。

【図表 3-5】『がんばって働かなくても生活していけると思う』について



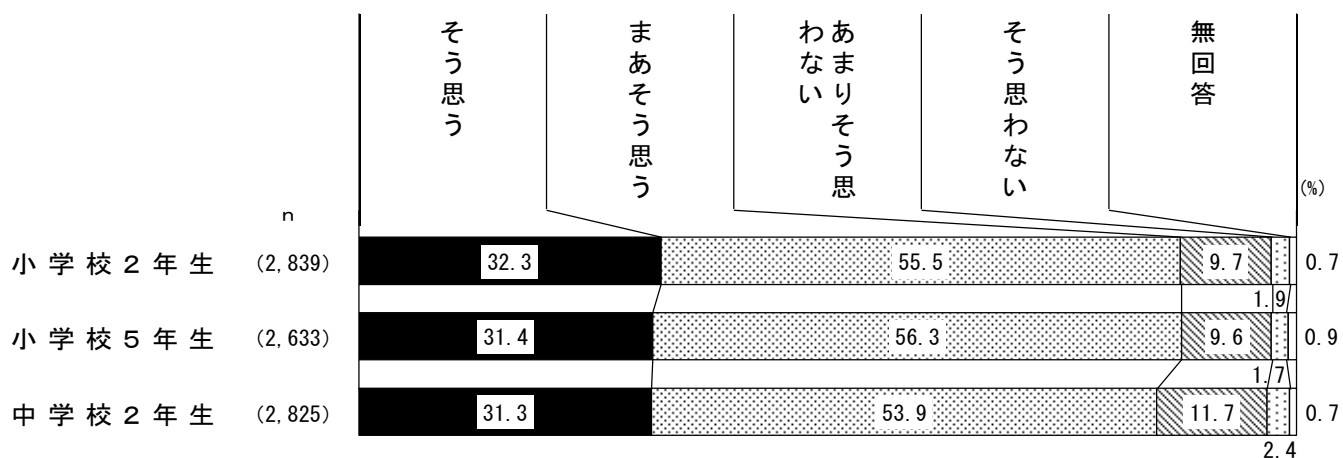
『子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ』についてどう思うか聞いたところ、いずれの学年でも「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合が「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足し合わせた割合を上回っている。

【図表 3-6】『子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ』について



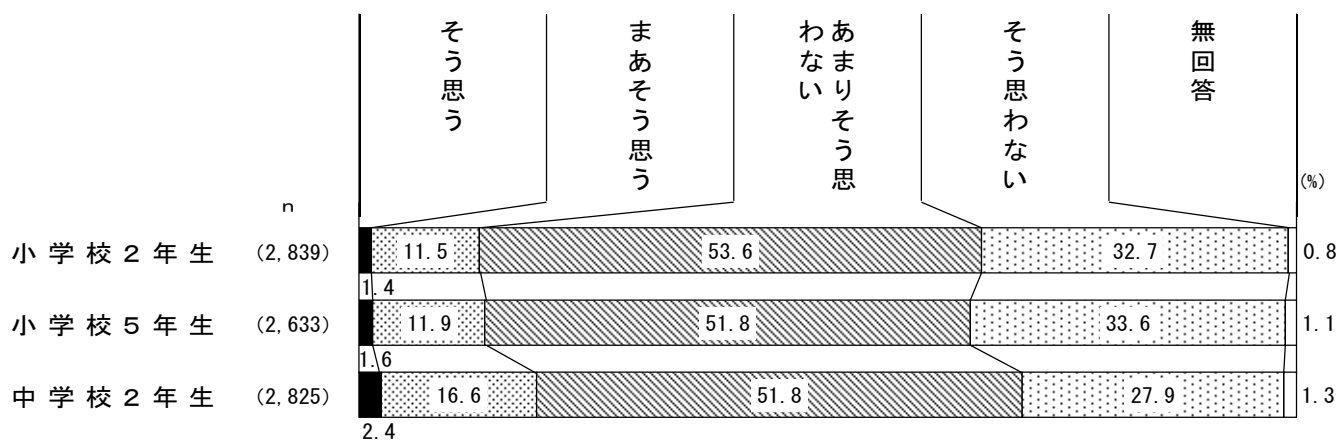
『努力すれば夢や希望はかなえられると思う』についてどう思うか聞いたところ、いずれの学年でも「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合が「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足し合わせた割合を上回っている。

【図表 3-7】『努力すれば夢や希望はかなえられると思う』について



『子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う』についてどう思うか聞いたところ、いずれの学年でも「そう思わない」と「あまりそう思わない」を足し合わせた割合が「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合を上回っている。

【図表 3-8】『子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う』について



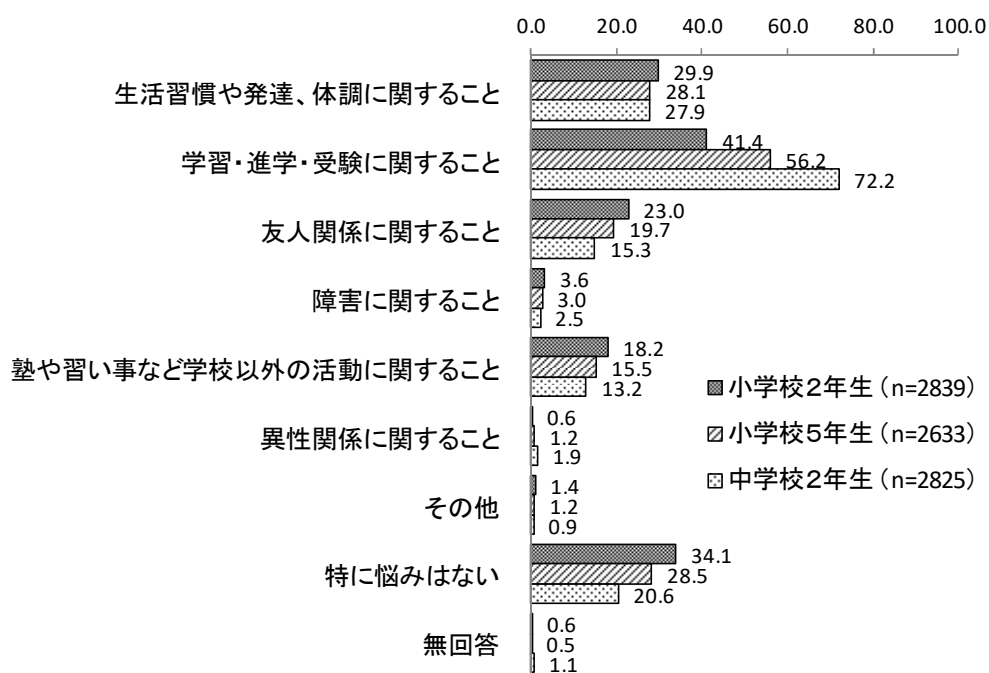
(4) 保護者の悩みごと

ア 子どもに関する悩み

① 子どもに関する悩み【小学・問20・中学・問19】(MA)

子どもに関する悩みを複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「学習・進学・受験に関すること」(小学2年生：41.4%、小学5年生：56.2%、中学2年生：72.2%)が最も高く、次いで「生活習慣や発達、体調に関すること」(小学2年生：29.9%、小学5年生：28.1%、中学2年生：27.9%)、「友人関係に関すること」(小学2年生：23.0%、小学5年生：19.7%、中学2年生：15.3%)となっている。

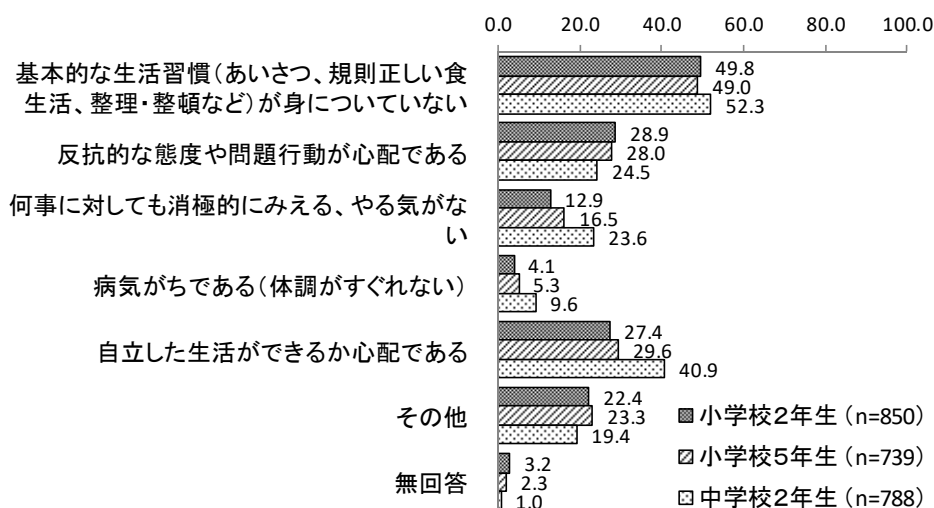
【図表 3-9】子どもに関する悩み（複数回答）



② 子どもの生活習慣や発達、体調に関する心配ごと・悩み【小学・問 20-2・中学・問 19-2】(MA)

子どもに関する悩みについて、「生活習慣や発達、体調に関すること」と回答した方に、心配ごと・悩みの内容を複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身についていない」（小学2年生：49.8%、小学5年生：49.0%、中学2年生：52.3%）が最も高く、次いで小学2年生のいる世帯の保護者では「反抗的な態度や問題行動が心配である」が28.9%、小学5年生、中学2年生のいる世帯の保護者では「自立した生活ができるか心配である」（小学5年生：29.6%、中学2年生：40.9%）となっている。

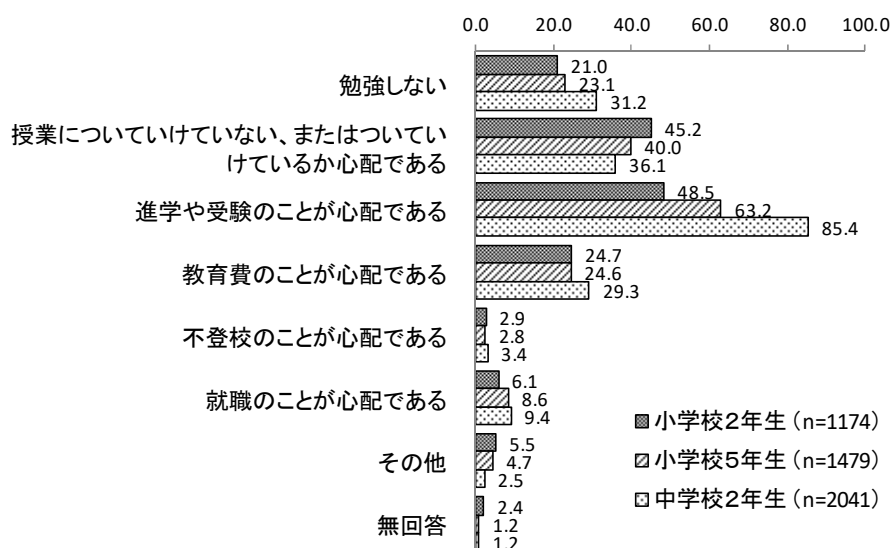
【図表 3-10】子どもの生活習慣や発達、体調に関する心配ごと・悩み（複数回答）



③ 子どもの学習・進学・受験に関する心配ごと・悩み【小学・問 20-3・中学・問 19-3】(MA)

子どもに関する悩みについて、「学習・進学・受験に関すること」と回答した方に、心配ごと・悩みの内容を複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「進学や受験のことが心配である」（小学2年生：48.5%、小学5年生：63.2%、中学2年生：85.4%）が最も高く、次いで「授業についていけない、またはついていけないか心配である」（小学2年生：45.2%、小学5年生：40.0%、中学2年生：36.1%）となっている。

【図表 3-11】子どもの進学、就職等に関する心配ごと・悩み（複数回答）



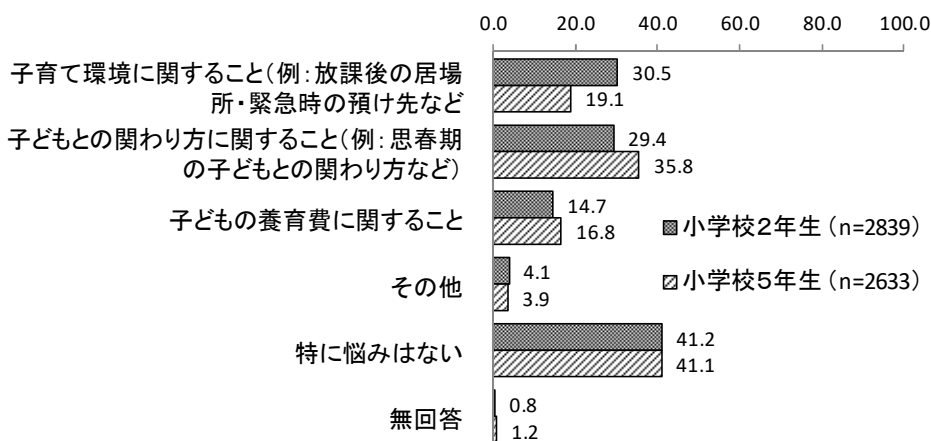
イ 子育てに関する悩み

① 子育てに関する悩み【小学・問 21】(MA)

子育てに関する悩みを複数回答で聞いたところ、小学2年生、小学5年生のいる世帯の保護者ともに「特に悩みはない」(小学2年生：41.2%、小学5年生：41.1%)が最も高くなっている。

悩みの回答内容では、小学2年生のいる世帯の保護者では「子育て環境に関すること(例：放課後の居場所・緊急時の預け先など)」が30.5%で、小学5年生のいる世帯の保護者では「子どもとの関わり方に関すること(例：思春期の子どもとの関わり方など)」が35.8%でそれぞれ最も高くなっている。

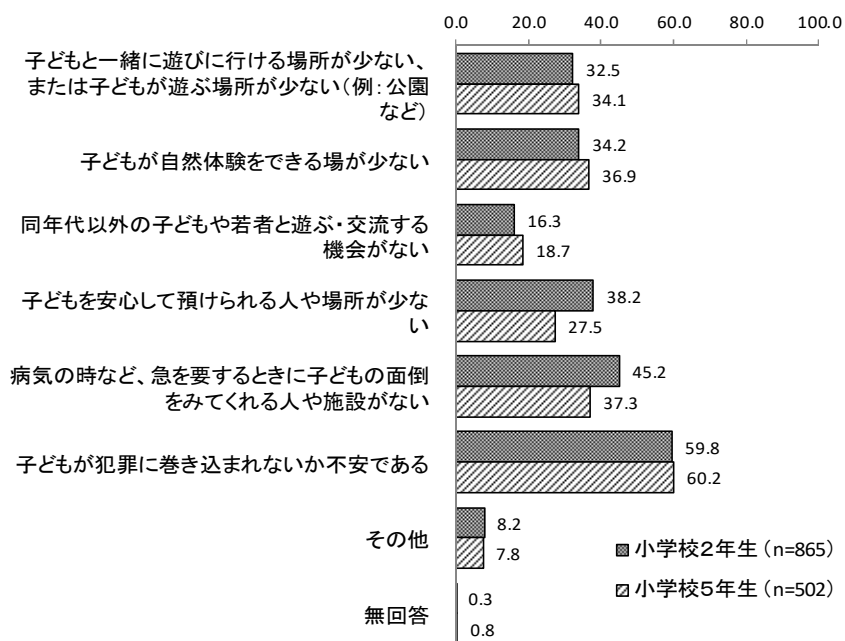
【図表 3-12】子育てに関する悩み(複数回答)



② 子育て環境に関する心配ごと・悩み【小学・問 21-2】(MA)

子育てに関する悩みについて、「子育て環境に関すること(例：放課後の居場所・緊急時の預け先など)」と回答した方に、心配ごと・悩みの内容を複数回答で聞いたところ、小学2年生、小学5年生のいる世帯の保護者ともに「子どもが犯罪に巻き込まれないか不安である」(小学2年生：59.8%、小学5年生：60.2%)が最も高く、次いで「病気の時など、急を要するときに子どもの面倒をみしてくれる人や施設がない」(小学2年生：45.2%、小学5年生：37.3%)となっている。

【図表 3-13】子育て環境に関する心配ごと・悩み(複数回答)



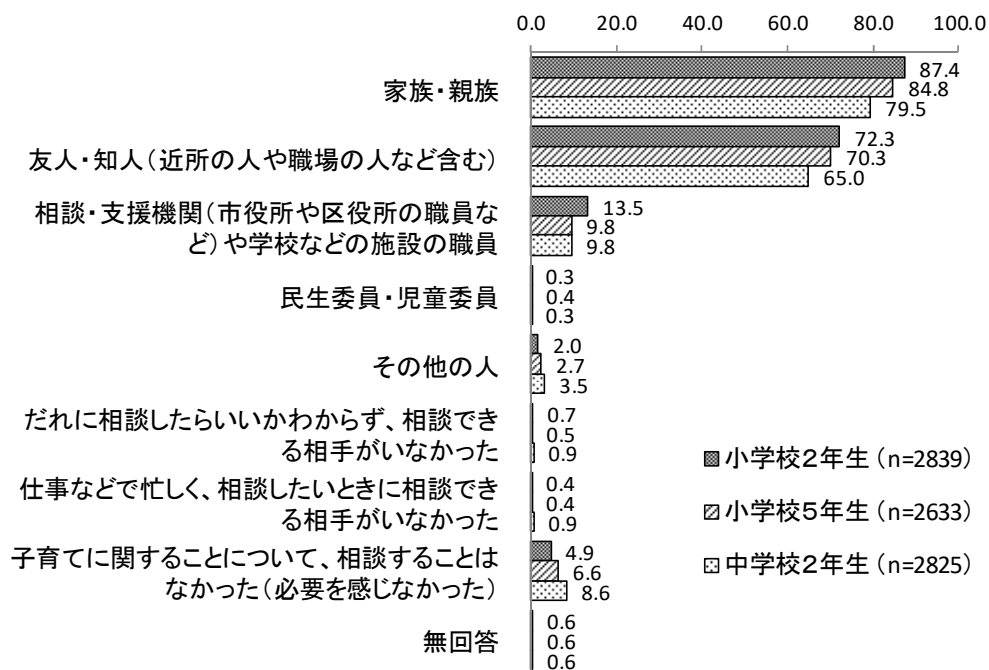
(5) 保護者の相談相手の有無等

ア 相談相手の有無

① 子育てに関する相談先【小学・問 17a、中学・問 16a】(MA)

子育てに関する相談先を複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「家族・親族」(小学2年生：87.4%、小学5年生：84.8%、中学2年生：79.5%)が最も高く、次いで「友人・知人(近所の人や職場の人など含む)」(小学2年生：72.3%、小学5年生：70.3%、中学2年生：65.0%)となっている。

【図表 3-14】子育てに関する相談先(複数回答)

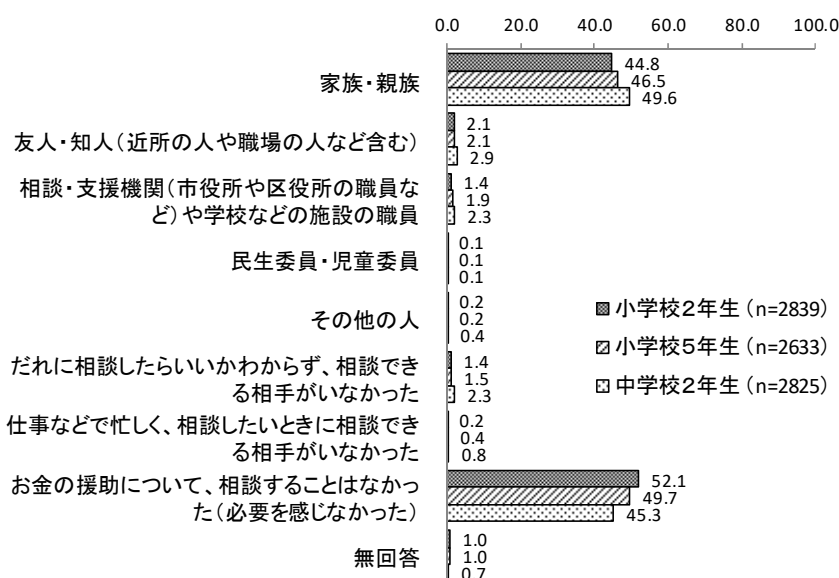


② いざという時のお金の援助相談先【小学・問 17b、中学・問 16b】(MA)

いざという時のお金の援助相談先を複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「家族・親族」(小学2年生:44.8%、小学5年生:46.5%、中学2年生:49.6%)が最も高くなっている。

一方、「お金の援助について、相談することはなかった(必要を感じなかった)」は小学2年生のいる世帯の保護者で52.1%、小学5年生のいる世帯の保護者で49.7%、中学2年生のいる世帯の保護者で45.3%となっている。

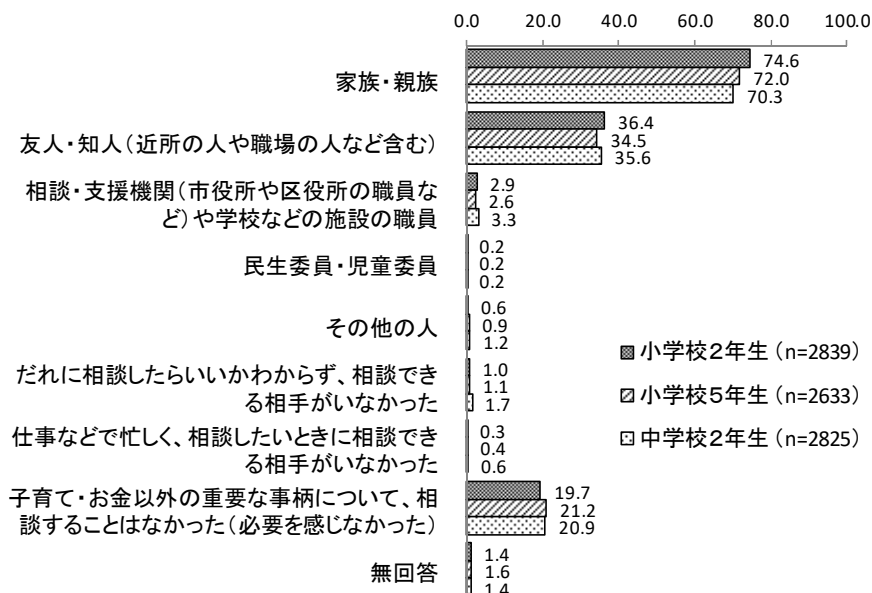
【図表 3-15】いざという時のお金の援助相談先(複数回答)



③ 子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先【小学・問 17c、中学・問 16c】(MA)

子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先を複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「家族・親族」(小学2年生:74.6%、小学5年生:72.0%、中学2年生:70.3%)が最も高く、次いで「友人・知人(近所の人や職場の人など含む)」(小学2年生:36.4%、小学5年生:34.5%、中学2年生:35.6%)となっている。

【図表 3-16】子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先(複数回答)

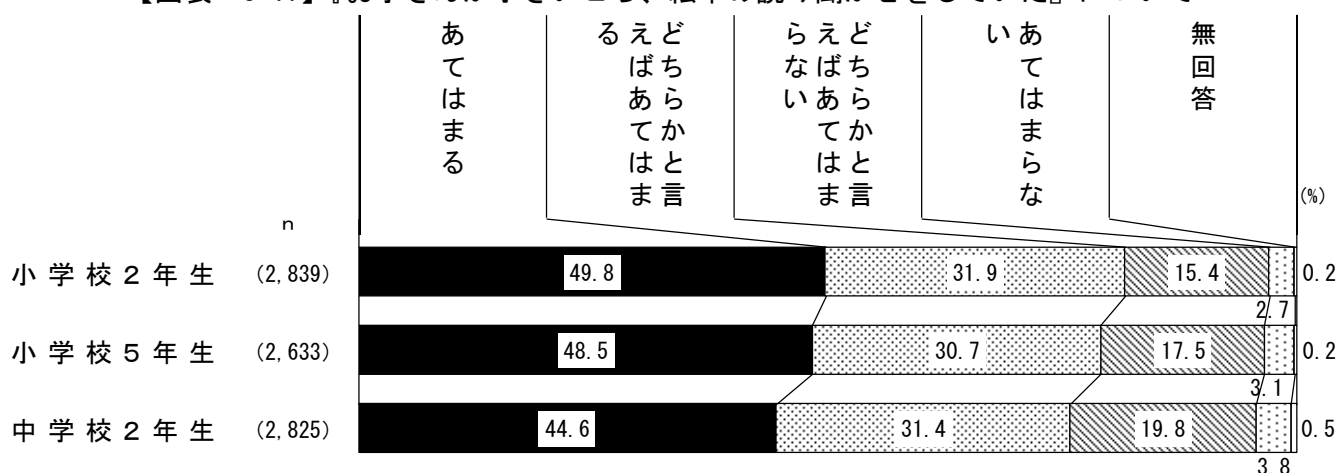


(6) 保護者と子どもとの関わり

ア これまでの子どもとの関わり方【小学・問7・中学・問6】(SA)

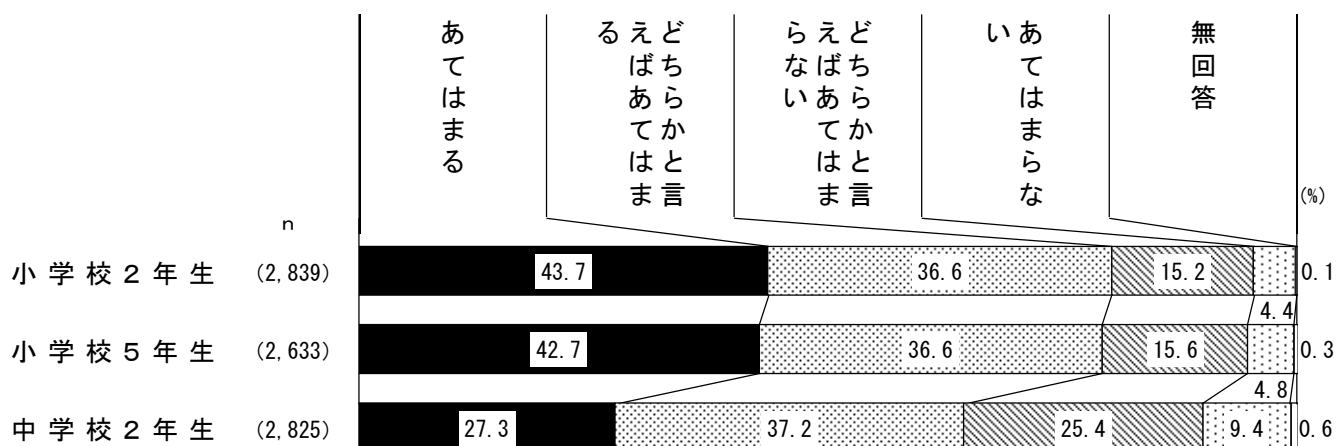
これまでの子どもとの関わり方を聞いたところ、『お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた』では「あてはまる」(小学2年生:49.8%、小学5年生:48.5%、中学2年生:44.6%)が最も高く、次いで、「どちらかと言えばあてはまる」(小学2年生:31.9%、小学5年生:30.7%、中学2年生:31.4%)、「どちらかと言えばあてはまらない」(小学2年生:15.4%、小学5年生:17.5%、中学2年生:19.8%)となっている。

【図表 3-17】『お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた』について



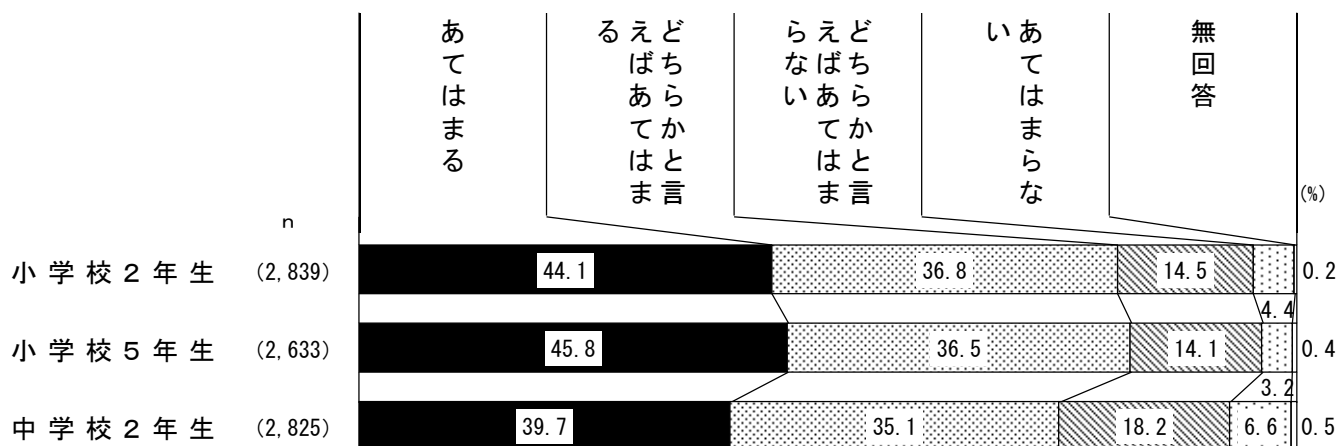
『テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている』では、小学2年生のいる世帯の保護者、小学5年生のいる世帯の保護者で「あてはまる」(小学2年生:43.7%、小学5年生:42.7%)が最も高く、次いで、「どちらかと言えばあてはまる」(小学2年生:36.6%、小学5年生:36.6%)、「どちらかと言えばあてはまらない」(小学2年生:15.2%、小学5年生:15.6%)となっている。中学2年生のいる世帯の保護者は、「どちらかと言えばあてはまる」が37.2%と最も高く、次いで、「あてはまる」(27.3%)、「どちらかと言えばあてはまらない」(25.4%)となっている。

【図表 3-18】『テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている』について



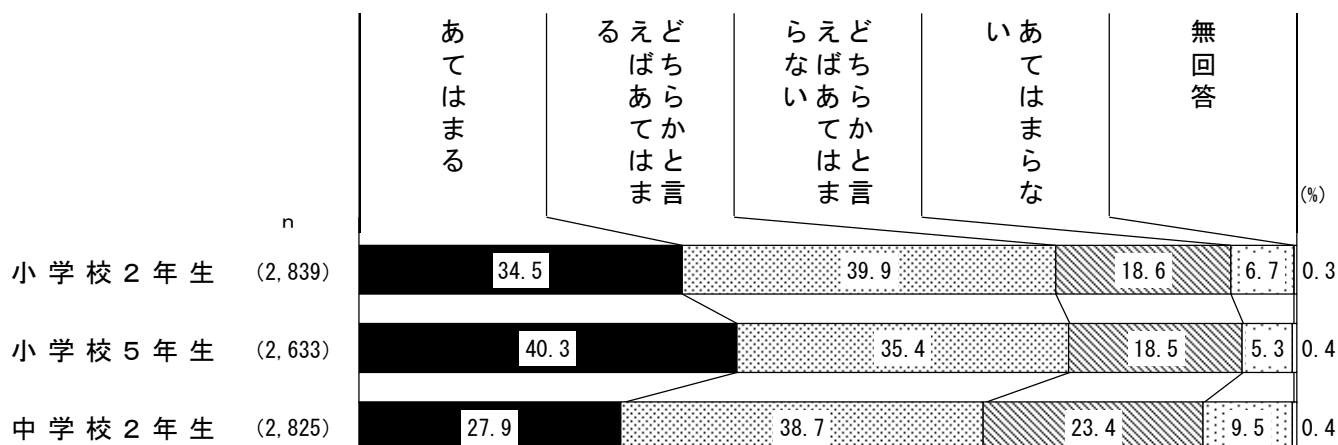
『お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる』では「あてはまる」(小学2年生:44.1%、小学5年生:45.8%、中学2年生:39.7%)が最も高く、次いで、「どちらかと言えばあてはまる」(小学2年生:36.8%、小学5年生:36.5%、中学2年生:35.1%)、「どちらかと言えばあてはまらない」(小学2年生:14.5%、小学5年生:14.1%、中学2年生:18.2%)となっている。

【図表 3-19】『お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる』について



『お子さんに本や新聞を読むように勧めている』では、小学2年生のいる世帯の保護者、中学2年生のいる世帯の保護者で、「どちらかと言えばあてはまる」(小学2年生:39.9%、中学2年生:38.7%)が最も高く、次いで、「あてはまる」(小学2年生:34.5%、中学2年生:27.9%)、「どちらかと言えばあてはまらない」(小学2年生:18.6%、中学2年生:23.4%)となっている。小学5年生のいる世帯の保護者は、「あてはまる」が40.3%と最も高く、次いで、「どちらかと言えばあてはまる」(35.4%)、「どちらかと言えばあてはまらない」(18.5%)となっている。

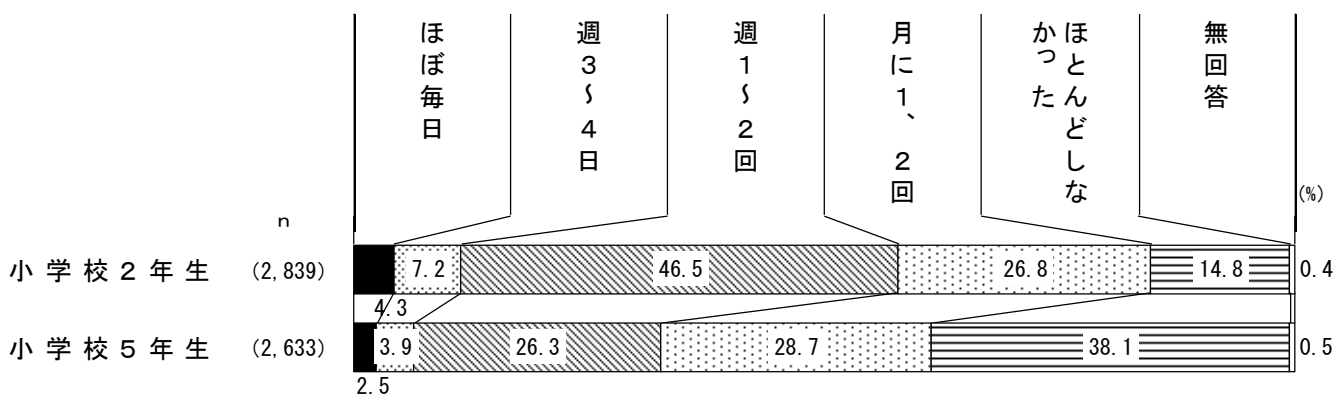
【図表 3-20】『お子さんに本や新聞を読むように勧めている』について



イ 普段の子どもとの過ごし方【小学・問8・中学・問7】(SA)

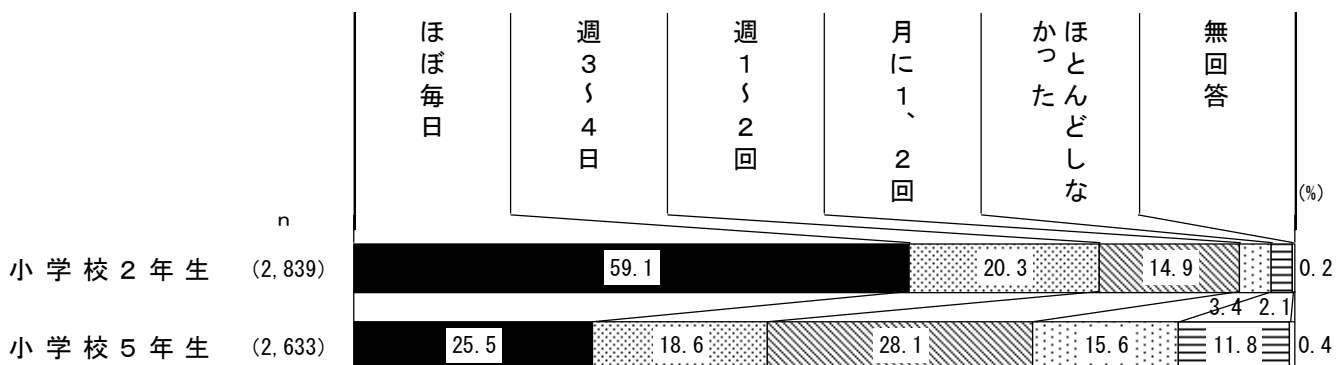
直近1か月の小学生の子どもとの過ごし方を聞いたところ、『子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ』では小学2年生のいる世帯の保護者で「週1～2回」が46.5%と最も高く、次いで、「月に1、2回」(26.8%)、「ほとんどしなかった」(14.8%)となっている。小学5年生のいる世帯の保護者で「ほとんどしなかった」が38.1%と最も高く、次いで、「月に1、2回」(28.7%)、「週1～2回」(26.3%)となっている。

【図表 3-21】『子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ』について



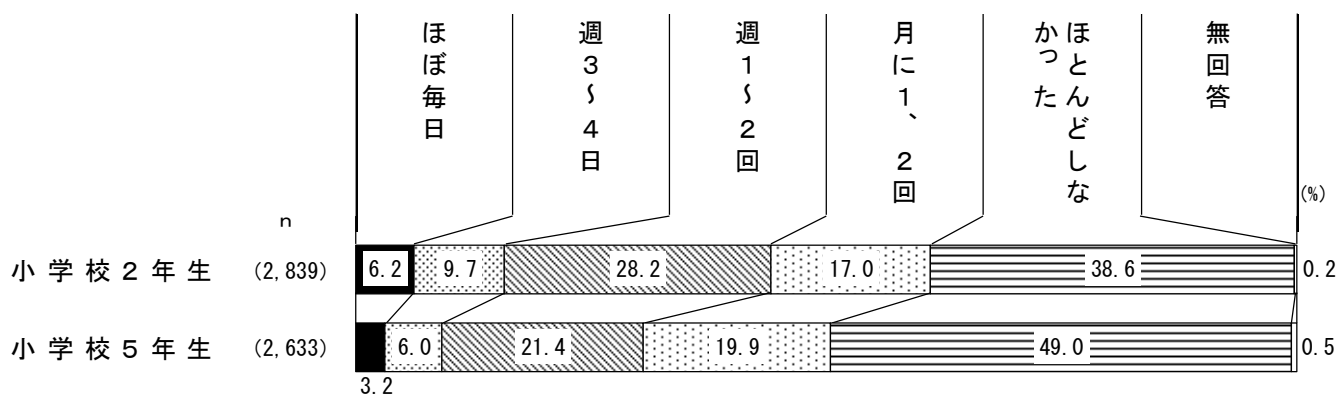
『宿題など、子どもの勉強を見た』では、小学2年生のいる世帯の保護者で「ほぼ毎日」が59.1%と最も高く、次いで、「週3～4回」(20.3%)、「週1～2回」(14.9%)となっている。小学5年生のいる世帯の保護者で「週1～2回」が28.1%と最も高く、次いで、「ほぼ毎日」(25.5%)、「週3～4回」(18.6%)となっている。

【図表 3-22】『宿題など、子どもの勉強を見た』について



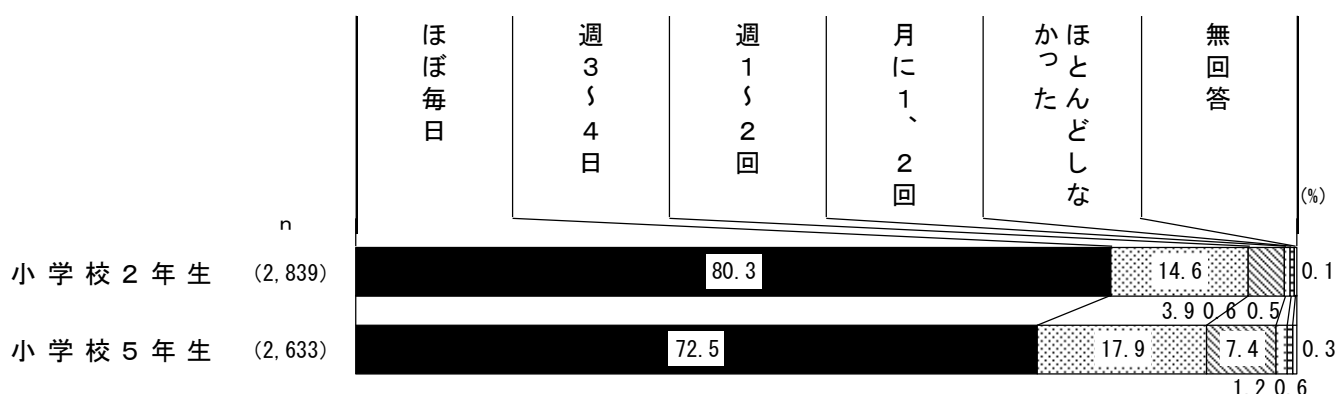
『子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ』では、「ほとんどしなかった」（小学2年生:38.6%、小学5年生:49.0%）が最も高く、次いで、「週1～2回」（小学2年生:28.2%、小学5年生:21.4%）、「月に1、2回」（小学2年生:17.0%、小学5年生:19.9%）となっている。

【図表 3-23】『子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ』について



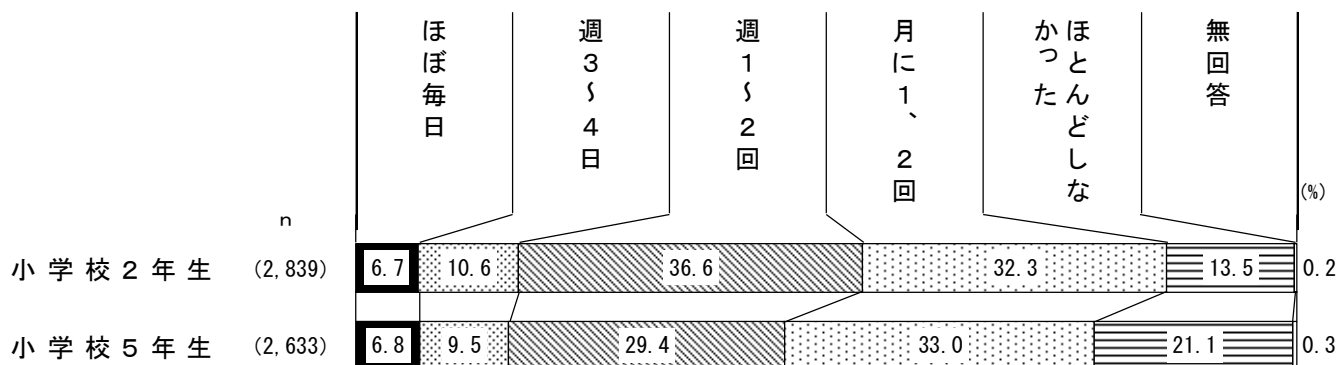
『子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした』では、「ほぼ毎日」（小学2年生:80.3%、小学5年生:72.5%）が最も高く、次いで、「週3～4回」（小学2年生:14.6%、小学5年生:17.9%）、「週1～2回」（小学2年生:3.9%、小学5年生:7.4%）となっている。

【図表 3-24】『子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした』について



『料理など、子どもと一緒に家事をした』では、小学2年生のいる世帯の保護者で「週1～2回」が36.6%と最も高く、次いで、「月に1、2回」(32.3%)、「ほとんどしなかった」(13.5%)となっている。小学5年生のいる世帯の保護者で「月に1、2回」が33.0%と最も高く、次いで、「週1～2回」(29.4%)、「ほとんどしなかった」(21.1%)となっている。

【図表 3-25】『料理など、子どもと一緒に家事をした』について

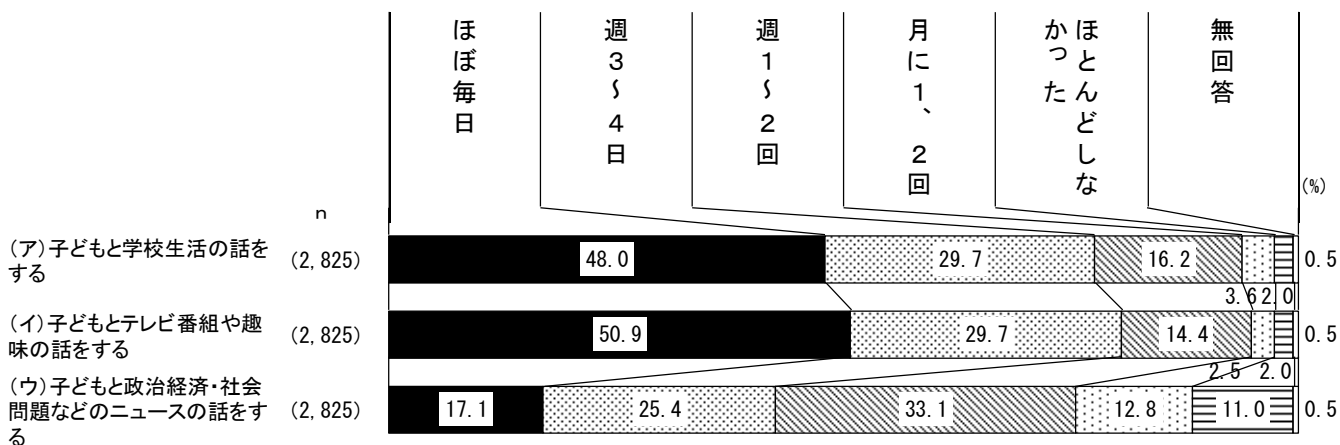


最近の中学生の子どもとの過ごし方を聞いたところ、『子どもと学校生活の話をする』では「ほぼ毎日」が48.0%と最も高く、次いで、「週3～4回」(29.7%)、「週1～2回」(16.2%)となっている。

『子どもとテレビ番組や趣味の話をする』では「ほぼ毎日」が50.9%と最も高く、次いで、「週3～4回」(29.7%)、「週1～2回」(14.4%)となっている。

『子どもと政治経済・社会問題などのニュースの話をする』では「週1～2回」が33.1%と最も高く、次いで、「週3～4回」(25.4%)、「ほぼ毎日」(17.1%)となっている。

【図表 3-26】普段の子どもとの過ごし方 (中学2年生)

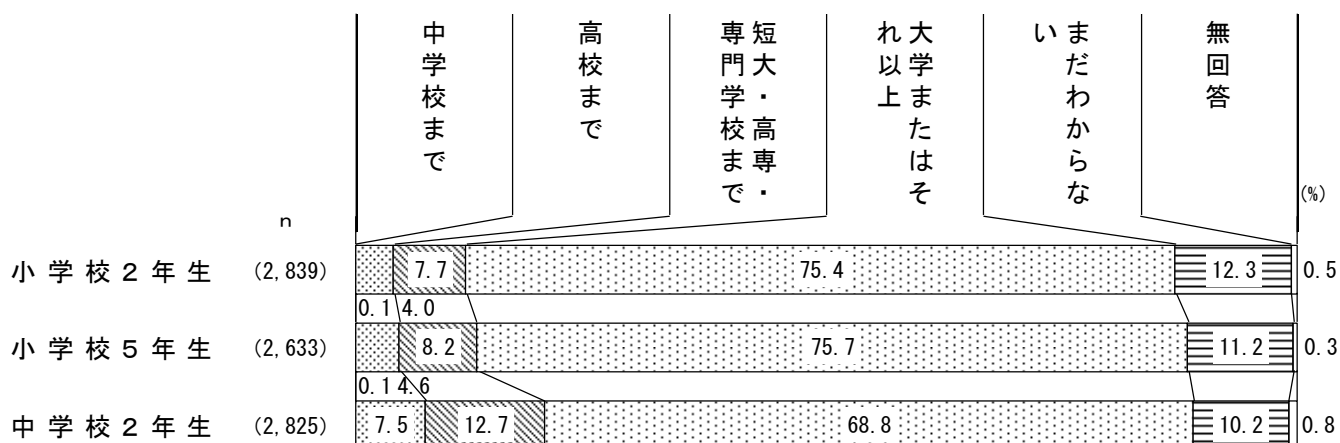


(7) 子どもに対する将来展望

ア 子どもに望む最終学歴【小学・問11・中学・問11】(SA)

保護者から見た子どもに望む最終学歴を聞いたところ、小学2年生のいる世帯の保護者、小学5年生のいる世帯の保護者で「大学またはそれ以上」(小学2年生:75.4%、小学5年生:75.7%)が最も高く、次いで、「まだわからない」(小学2年生:12.3%、小学5年生:11.2%)、「短大・高専・専門学校まで」(小学2年生:7.7%、小学5年生:8.2%)となっている。中学2年生のいる世帯の保護者で「大学またはそれ以上」が68.8%と最も高く、次いで、「短大・高専・専門学校まで」(12.7%)、「まだわからない」(10.2%)となっている。

【図表 3-27】子どもに望む最終学歴

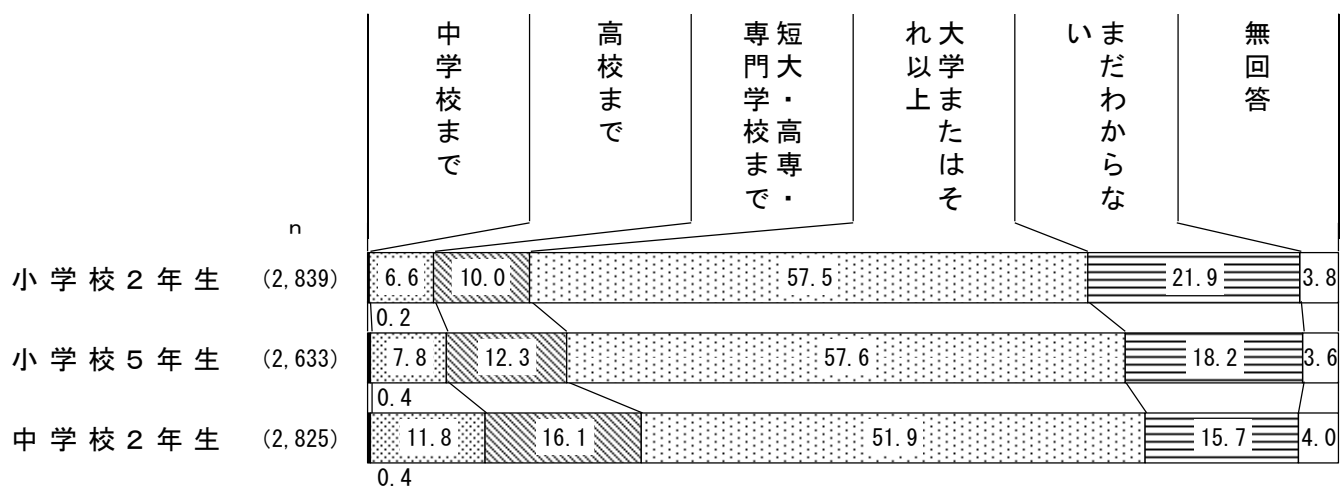


イ 子どもの最終学歴(現実的に見た進路)

① 子どもの最終学歴(現実的に見た進路)【小学・問12・中学・問10】(SA)

保護者から見た子どもの最終学歴(現実的に見た進路)を聞いたところ、小学2年生のいる世帯の保護者、小学5年生のいる世帯の保護者で「大学またはそれ以上」(小学2年生:57.5%、小学5年生:57.6%)が最も高く、次いで、「まだわからない」(小学2年生:21.9%、小学5年生:18.2%)、「短大・高専・専門学校まで」(小学2年生:10.0%、小学5年生:12.3%)となっている。中学2年生のいる世帯の保護者で「大学またはそれ以上」が51.9%と最も高く、次いで、「短大・高専・専門学校まで」(16.1%)、「まだわからない」(15.7%)となっている。

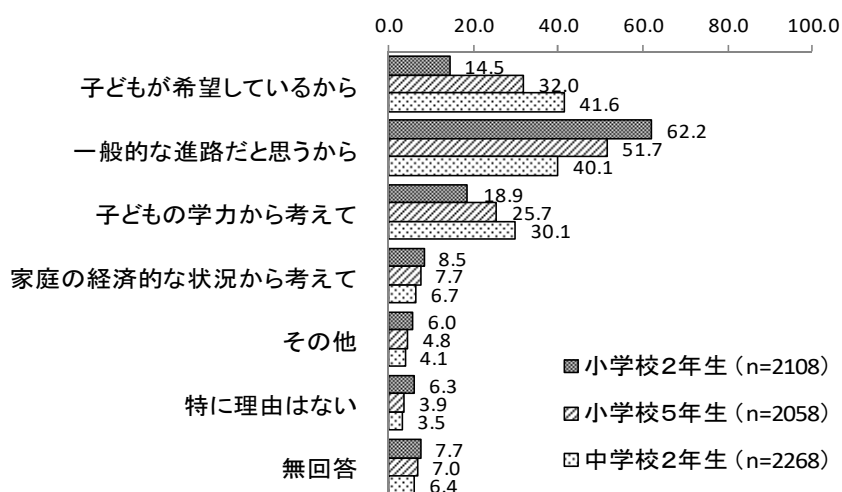
【図表 3-28】子どもの最終学歴(現実的に見た進路)



② 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）の理由【小学・問13・中学・問12】(MA)

保護者から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）の理由を複数回答で聞いたところ、小学2年生のいる世帯の保護者で「一般的な進路だと思うから」が62.2%と最も高く、次いで、「子どもの学力から考えて」(18.9%)、「子どもが希望しているから」(14.5%)となっている。小学5年生のいる世帯の保護者で、「一般的な進路だと思うから」が51.7%と最も高く、次いで、「子どもが希望しているから」(32.0%)、「子どもの学力から考えて」(25.7%)となっている。中学2年生のいる世帯の保護者で「子どもが希望しているから」が41.6%と最も高く、「一般的な進路だと思うから」(40.1%)、「子どもの学力から考えて」(30.1%)となっている。

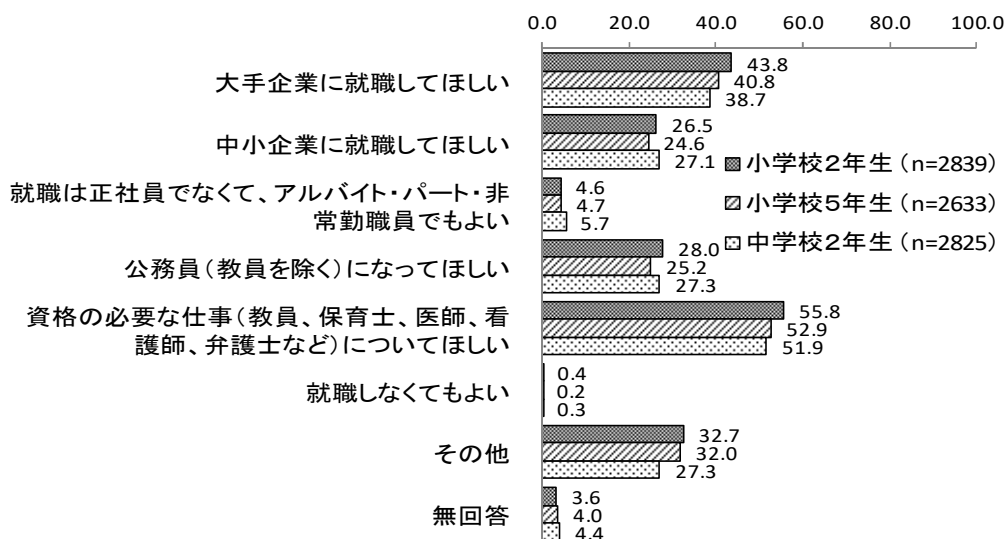
【図表 3-29】子どもの最終学歴（現実的に見た進路）の理由（複数回答）



ウ 子どもに望む就職先【小学・問14・中学・問13】(MA)

子どもに望む就職先を複数回答で聞いたところ、「資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい」(小学2年生:55.8%、小学5年生:52.9%、中学2年生:51.9%)が最も高く、次いで、「大手企業に就職してほしい」(小学2年生:43.8%、小学5年生:40.8%、中学2年生:38.7%)、「公務員（教員を除く）になってほしい」(小学2年生:28.0%、小学5年生:25.2%、中学2年生:27.3%)となっている。

【図表 3-30】子どもに望む就職先（複数回答）



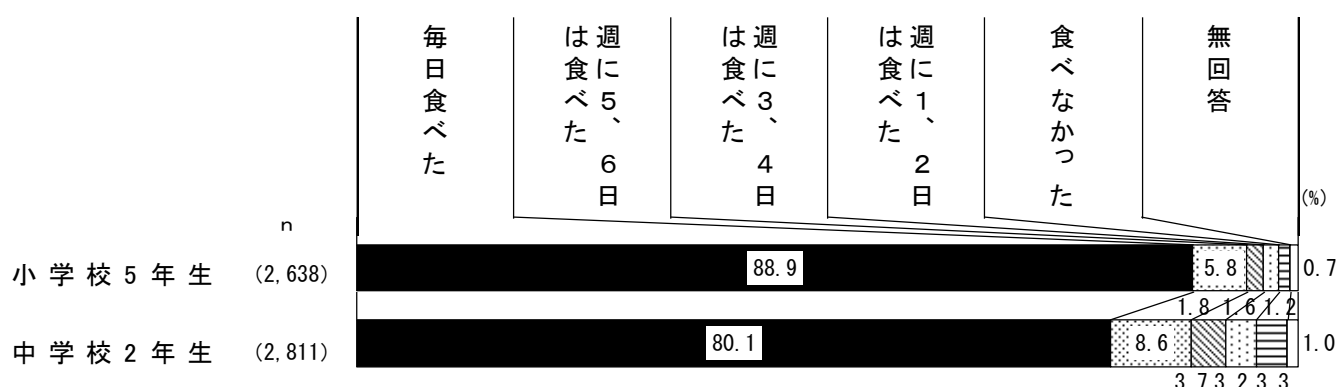
第4章 小学生・中学生に関する調査結果

(1) 基本的生活習慣

① 食事の頻度【小学・問11・中学・問11】(SA)と食事をとっていない理由【小学・問12・中学・問12】(MA)

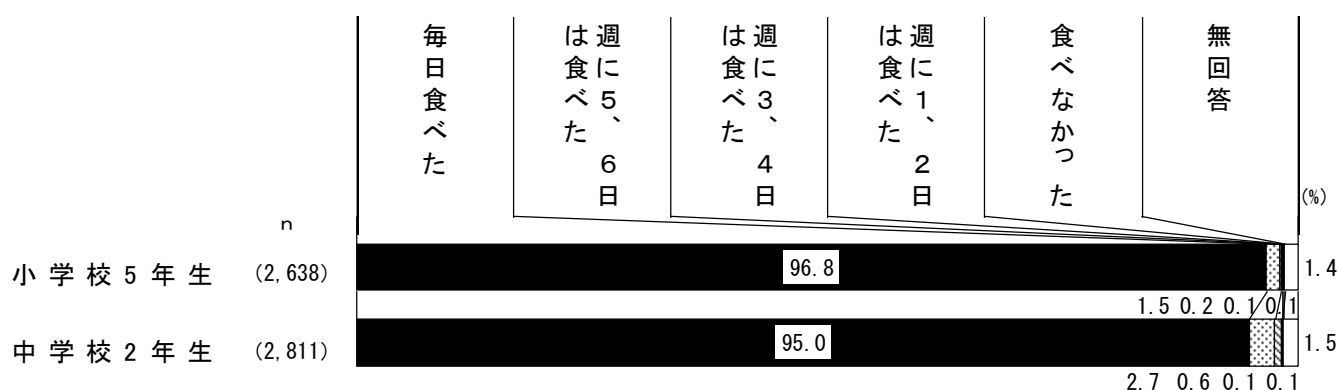
食事の頻度を聞いたところ、『朝ごはん』では「毎日食べた」(小学5年生:88.9%、中学2年生:80.1%)が最も高く、次いで、「週に5、6日は食べた」(小学5年生:5.8%、中学2年生:8.6%)、「週に3、4日食べた」(小学5年生:1.8%、中学2年生:3.7%)となっている。

【図表 4-1】食事の頻度（朝ごはん）



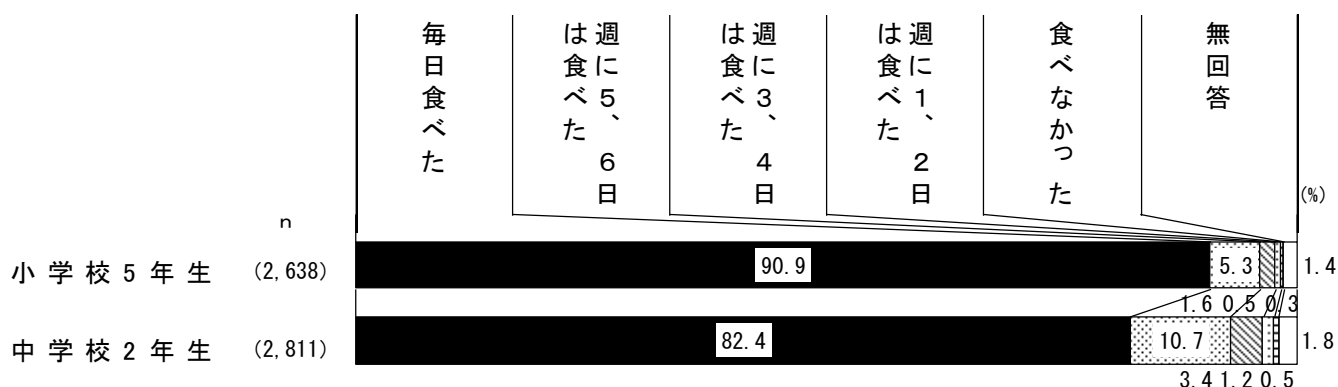
『夕ごはん』では「毎日食べた」(小学5年生:96.8%、中学2年生:95.0%)が最も高く、次いで、「週に5、6日は食べた」(小学5年生:1.5%、中学2年生:2.7%)、「週に3、4日食べた」(小学5年生:0.2%、中学2年生:0.6%)となっている。

【図表 4-2】食事の頻度（夕ごはん）



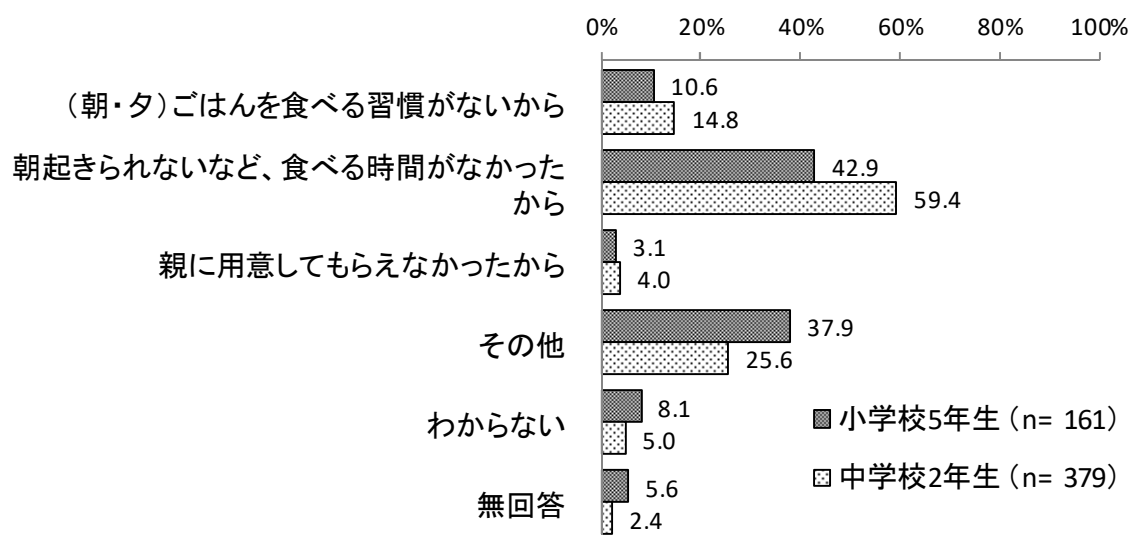
『夏休みのお昼ごはん』では「毎日食べた」（小学5年生:90.9%、中学2年生:82.4%）が最も高く、次いで、「週に5、6日は食べた」（小学5年生:5.3%、中学2年生:10.7%）、「週に3、4日食べた」（小学5年生:1.6%、中学2年生:3.4%）となっている。

【図表 4-3】 食事の頻度（夏休みのお昼ごはん）



朝食、夕食、夏休みの昼食を一つでも「週に3、4日は食べた」、「週に1、2日は食べた」、「食べなかった」と回答した方に、食事をとっていない理由を複数回答で聞いたところ、「朝起きられないなど、食べる時間がなかったから」（小学5年生:42.9%、中学2年生:59.4%）が最も高く、次いで、「（朝・夕）ごはんを食べる習慣がないから」（小学5年生:10.6%、中学2年生:14.8%）、「親に用意してもらえなかったから」（小学5年生:3.1%、中学2年生:4.0%）となっている。

【図表 4-4】 食事をとっていない理由（複数回答）

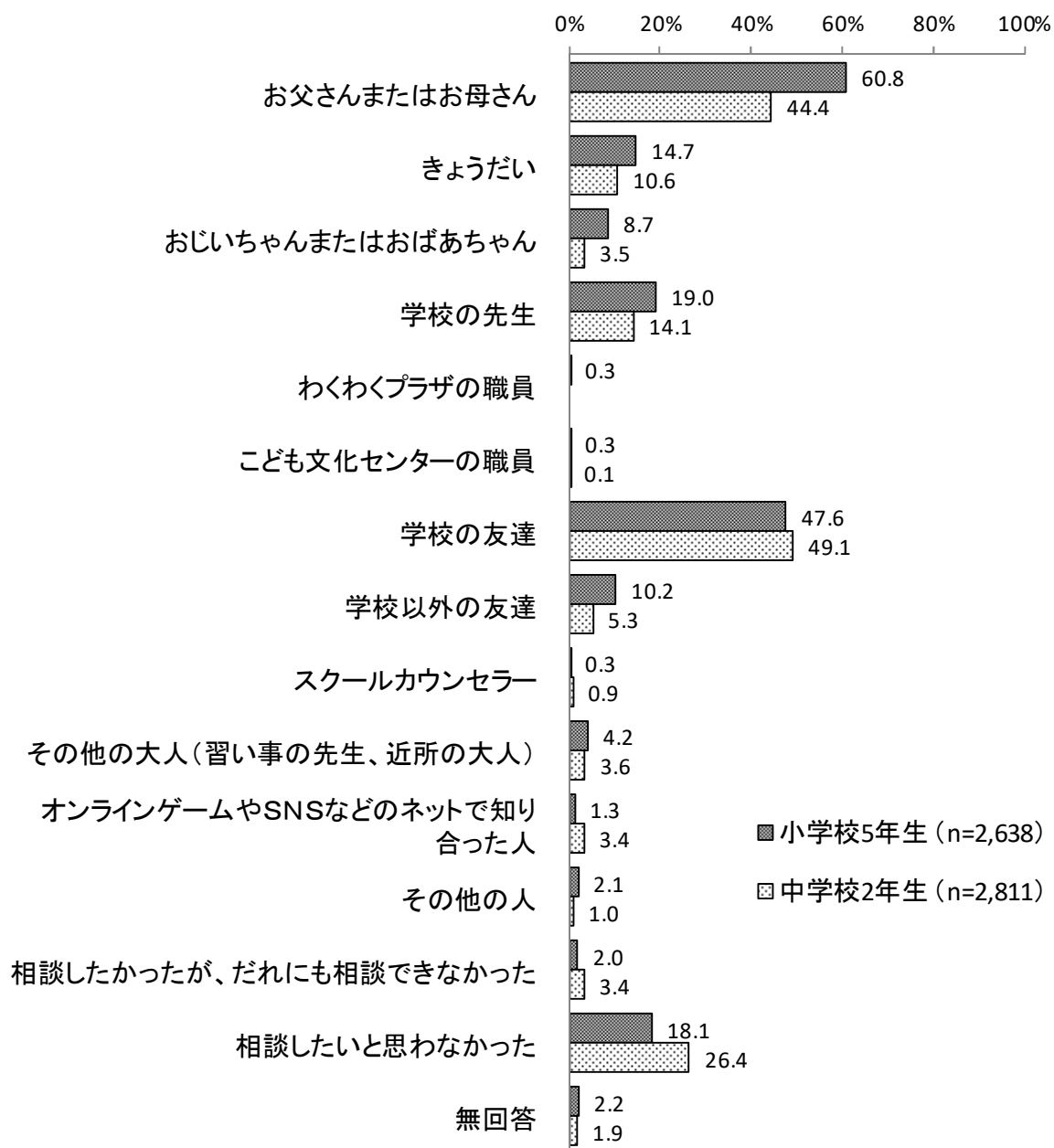


（２）相談相手の有無【小学・問 17・中学・問 22】（MA）

困りごとや悩みの相談相手を複数回答で聞いたところ、小学5年生では「お父さんまたはお母さん」が60.8%で最も高く、次いで「学校の友達」が47.6%、「学校の先生」が19.0%となっている。

中学2年生では「学校の友達」が49.1%で最も高く、次いで「お父さんまたはお母さん」が44.4%、「学校の先生」が14.1%となっている。

【図表 4-5】相談相手の有無（複数回答）



※選択肢「わくわくプラザの職員」は小学5年生のみ

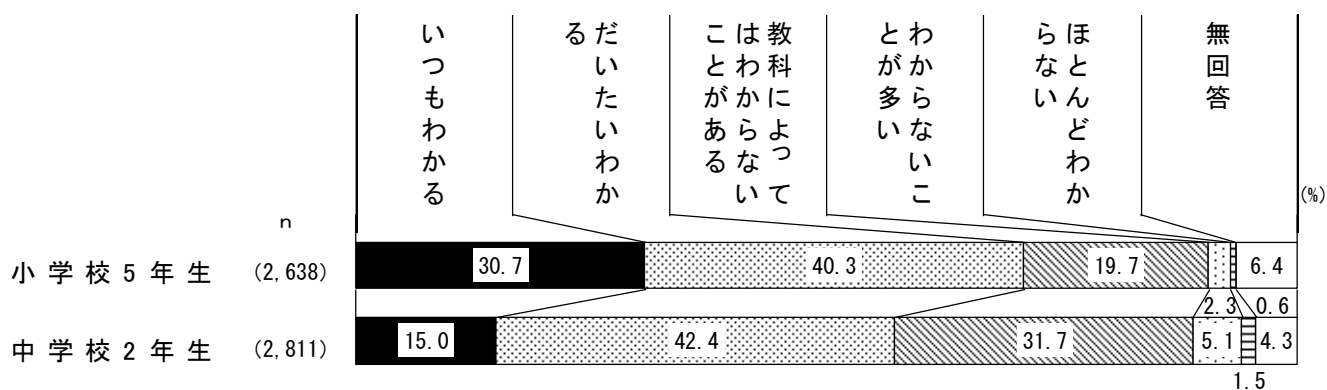
(3) 学習状況

ア 授業の理解度

① 授業の理解度【小学・問2・中学・問2】(SA)

授業の理解度を聞いたところ、小学5年生では「だいたいわかる」が40.3%で最も高く、次いで「いつもわかる」が30.7%、「教科によってはわからないことがある」が19.7%となっている。中学2年生では「だいたいわかる」が42.4%で最も高く、次いで「教科によってはわからないことがある」が31.7%、「いつもわかる」が15.0%となっている。

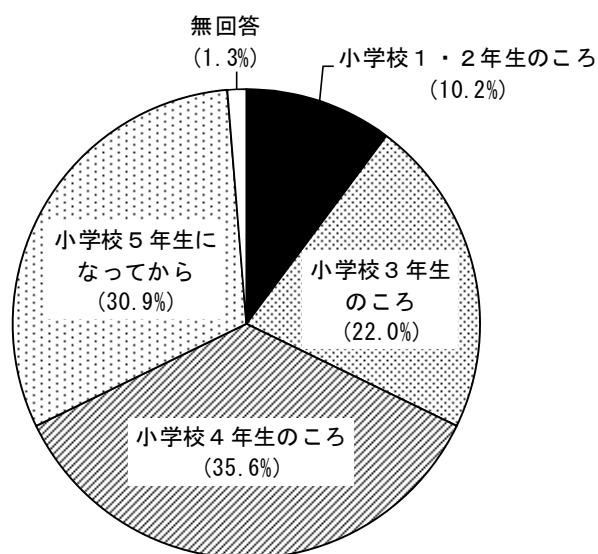
【図表 4-6】授業の理解度



② 授業がわからなくなった学年【小学・問3・中学・問3】(SA)

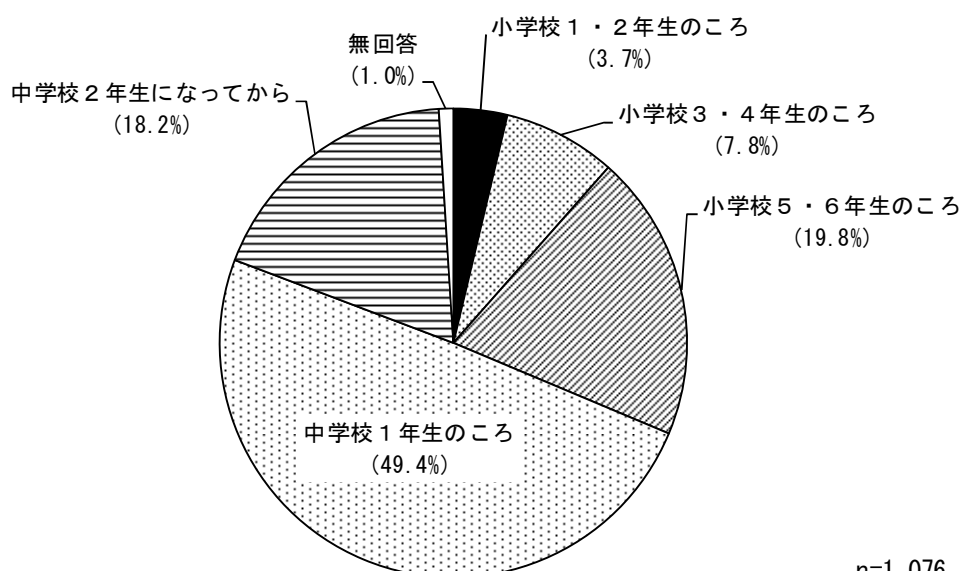
「教科によってはわからないことがある」「ほとんどわからないことが多い」「ほとんどわからない」のいずれかを回答した方に、授業がわからなくなった学年を聞いたところ、小学5年生では「小学校4年生のころ」が35.6%で最も高く、次いで「小学校5年生になってから」が30.9%、「小学校3年生のころ」が22.0%となっている。中学2年生では「中学校1年生のころ」が49.4%で最も高く、次いで「小学校5・6年生のころ」が19.8%、「中学校2年生になってから」が18.2%となっている。

【図表 4-7】授業がわからなくなった学年（小学5年生）



n= 596

【図表 4-8】授業がわからなくなった学年（中学2年生）

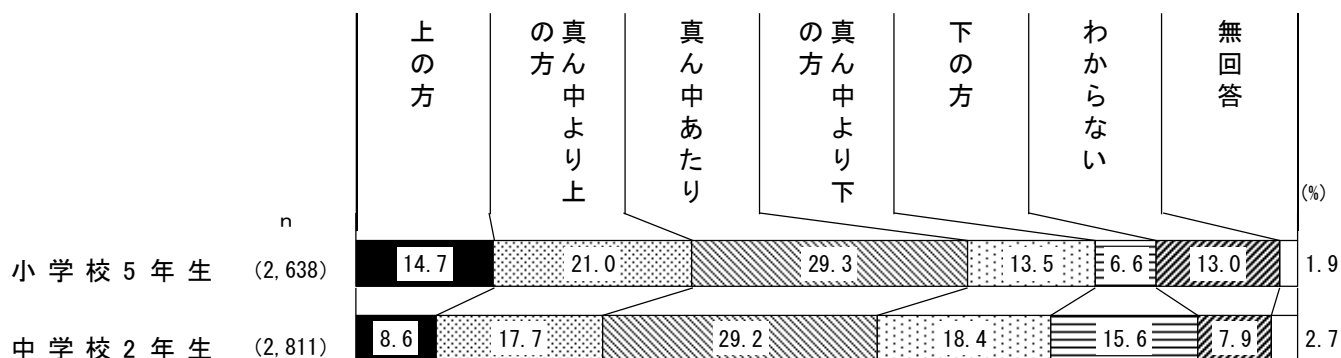


n=1,076

イ 成績【小学・問4・中学・問4】(SA)

クラス内での成績を聞いたところ、小学5年生では「真ん中あたり」が29.3%で最も高く、次いで「真ん中より上の方」が21.0%、「上の方」が14.7%となっている。中学2年生では「真ん中あたり」が29.2%で最も高く、次いで「真ん中より下の方」が18.4%、「真ん中より上の方」が17.7%となっている。

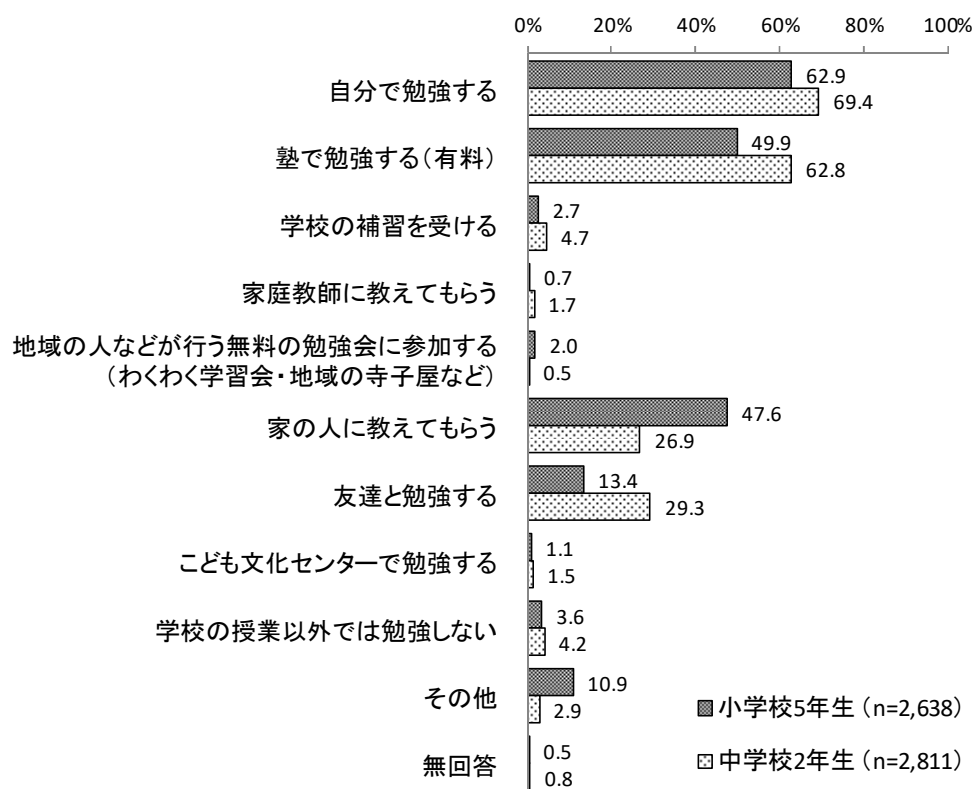
【図表 4-9】クラス内での成績



ウ 学習環境【小学・問5・中学・問5】(MA)

学校の授業外での学習環境を聞いたところ、小学5年生では「自分で勉強する」が62.9%で最も高く、次いで「塾で勉強する(有料)」が49.9%、「家の人に教えてもらう」が47.6%となっている。中学2年生では69.4%が最も高く、次いで「塾で勉強する(有料)」が62.8%、「友達と勉強する」が29.3%となっている。

【図表 4-10】学校の授業外での学習環境(複数回答)

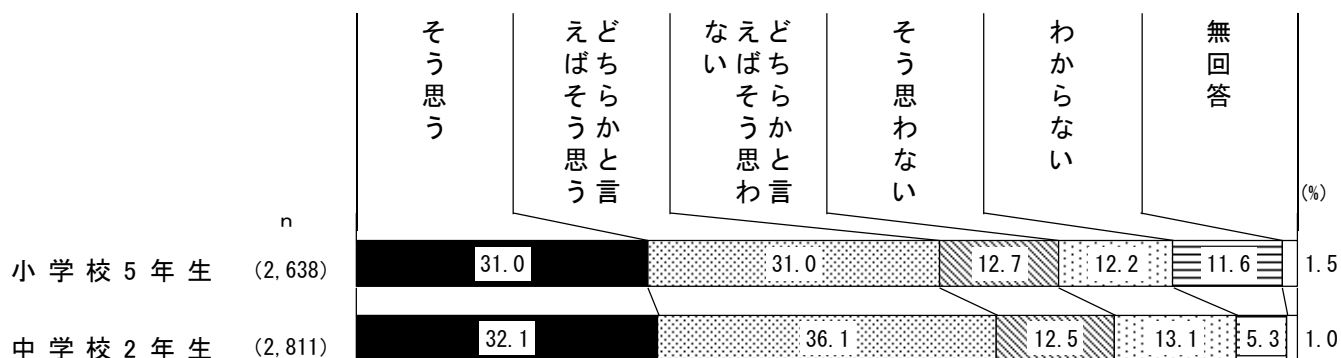


(4) 子どもの精神状態や考え方

ア 将来に対する考え方や自己肯定感など【小学・問 20・中学・問 25】(SA)

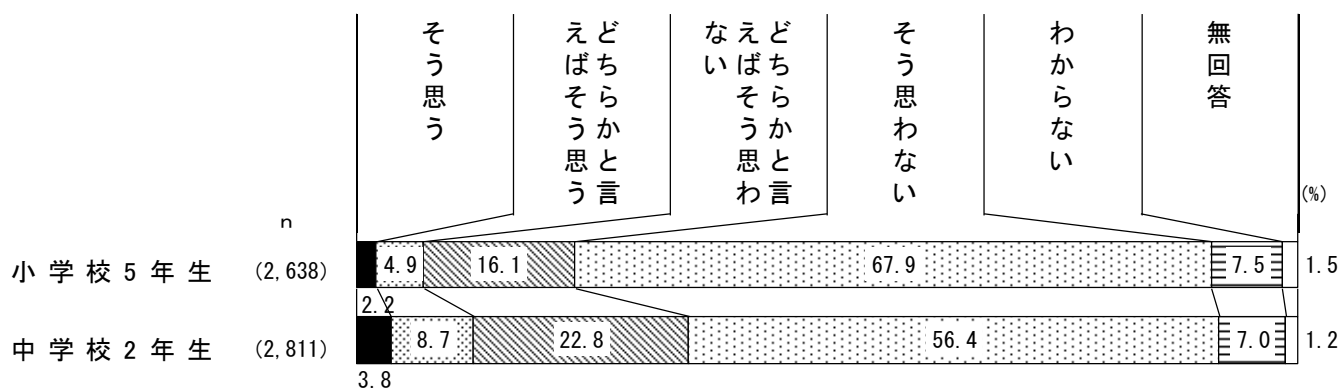
『大学を出ないとよい仕事につけないと思う』について聞いたところ、小学5年生、中学2年生ともに「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を足し合わせた割合が「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を足し合わせた割合を上回っている。

【図表 4-11】『大学を出ないとよい仕事につけないと思う』について



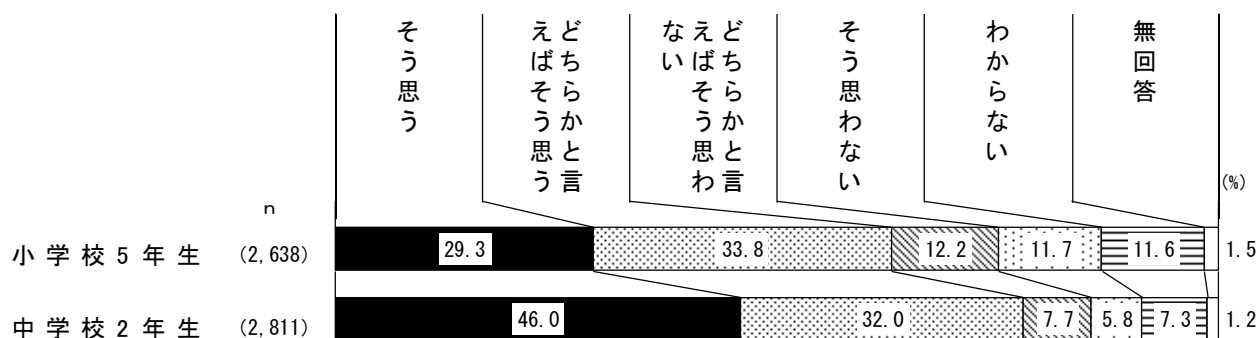
『がんばって働かなくても生活していけると思う』について聞いたところ、小学5年生、中学2年生ともに「そう思わない」と「どちらかと言えばそう思わない」を足し合わせた割合が「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を足し合わせた割合を上回っている。

【図表 4-12】『がんばって働かなくても生活していけると思う』について



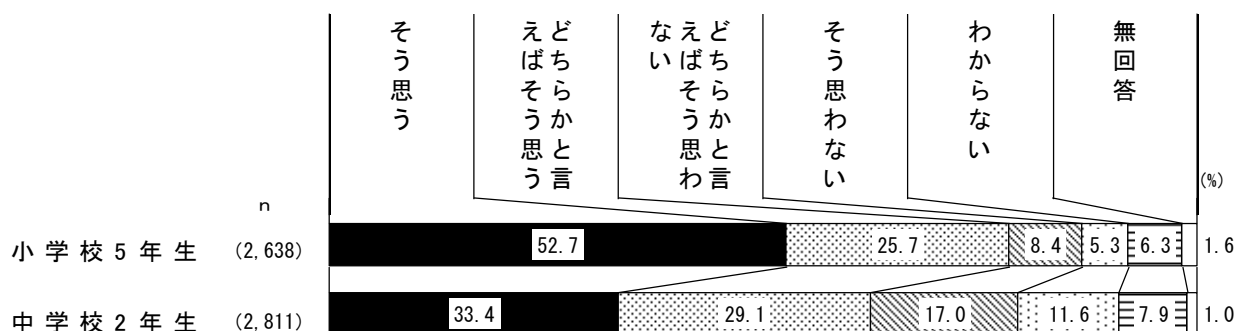
『希望する学校や会社に入れるか不安だ』について聞いたところ、小学5年生、中学2年生ともに「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を足し合わせた割合が「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を足し合わせた割合を上回っている。

【図表 4-13】『希望する学校や会社に入れるか不安だ』について



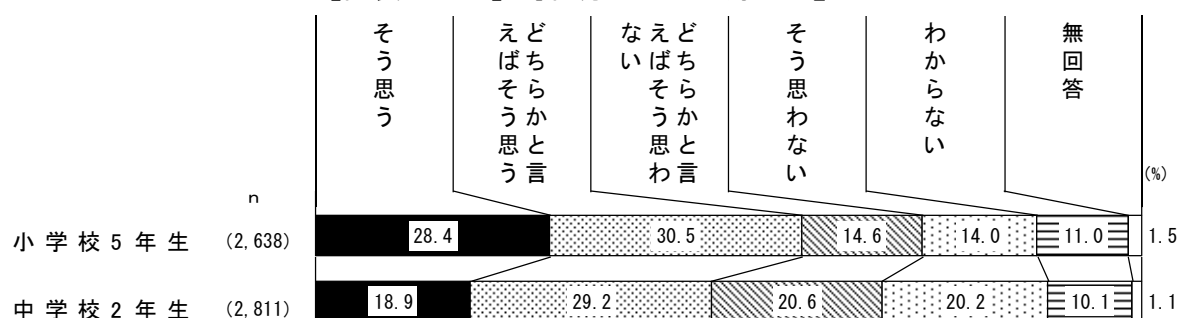
『自分の将来が楽しみだ』について聞いたところ、小学5年生、中学2年生ともに「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を足し合わせた割合が「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を足し合わせた割合を上回っている。

【図表 4-14】『自分の将来が楽しみだ』について



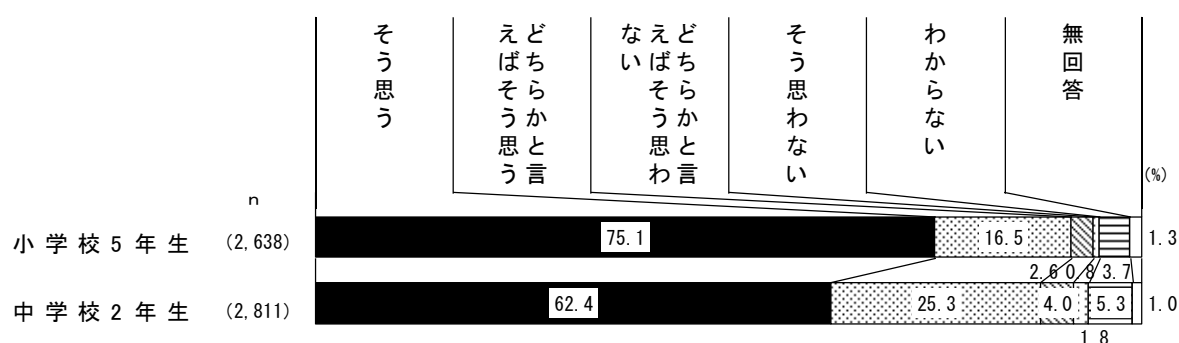
『自分のことが好きだ』について聞いたところ、小学5年生、中学2年生ともに「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を足し合わせた割合が「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を足し合わせた割合を上回っている。

【図表 4-15】『自分のことが好きだ』について



『自分は家族に大事にされていると思う』について聞いたところ、小学5年生、中学2年生ともに「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を足し合わせた割合が「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を足し合わせた割合を上回っている。

【図表 4-16】『自分は家族に大事にされていると思う』

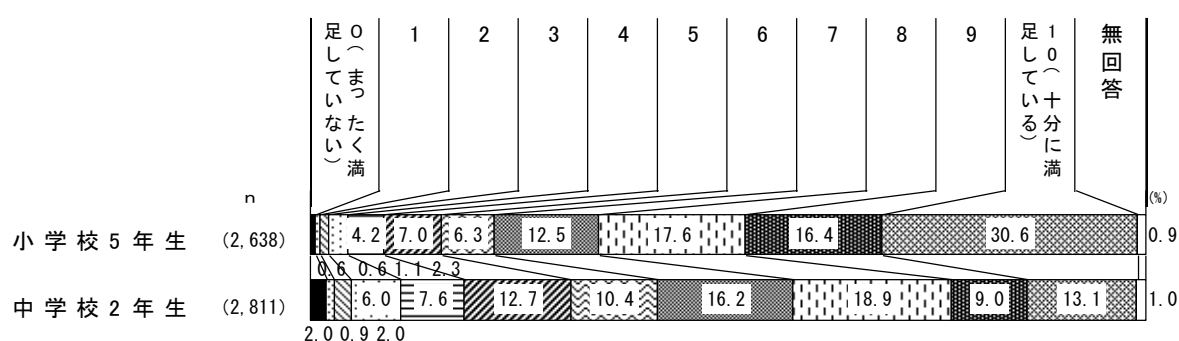


イ 現状への満足度【小学・問18・中学・問23】(SA)

最近の生活に対する満足度を聞いたところ、小学5年生では「10（十分に満足している）」が30.6%と最も高く、次いで「8」が17.6%、「9」が16.4%となっている。

中学2年生では「8」が18.9%と最も高く、次いで「7」が16.2%、「10（十分に満足している）」が13.1%となっている。

【図表 4-17】生活の満足度

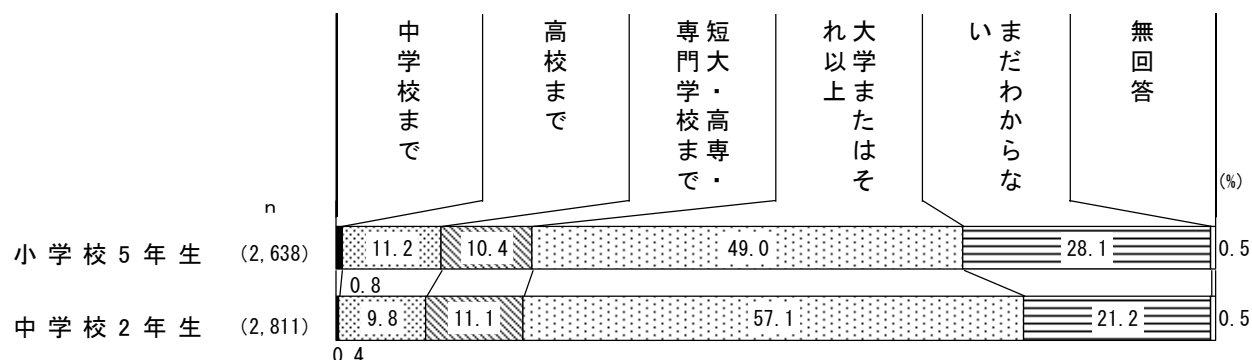


(5) 将来展望

① 希望する最終学歴【小学・問7・中学・問7】(SA)

希望する最終学歴を聞いたところ、小学5年生では「大学またはそれ以上」が49.0%と最も高く、次いで「まだわからない」が28.1%、「高校まで」が11.2%となっている。中学2年生では「大学またはそれ以上」が57.1%と最も高く、次いで「まだわからない」が21.2%、「短大・高専・専門学校まで」が11.1%となっている。

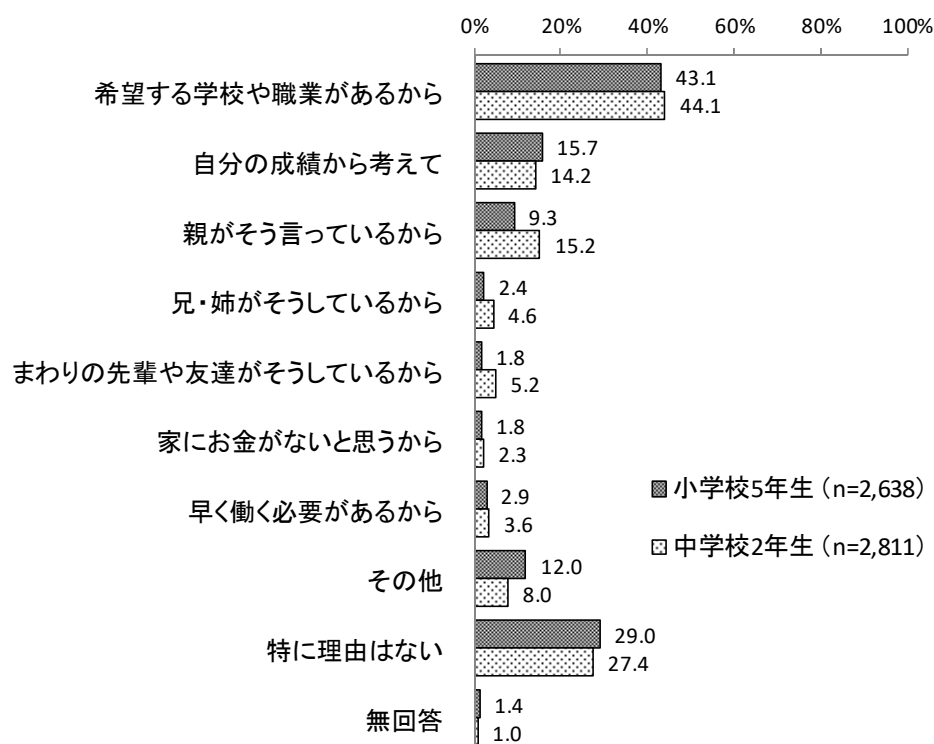
【図表 4-18】希望する最終学歴



② 希望する最終学歴の理由【小学・問8・中学・問8】(MA)

希望する最終学歴の理由を複数回答で聞いたところ、小学5年生では「希望する学校や職業があるから」が43.1%で最も高く、次いで「自分の成績から考えて」が15.7%、「親がそう言っているから」が9.3%となっている。中学2年生では「希望する学校や職業あるから」が44.1%と最も高く、次いで「親がそう言っているから」が15.2%、「自分の成績から考えて」が14.2%となっている。

【図表 4-19】希望する最終学歴の理由（複数回答）

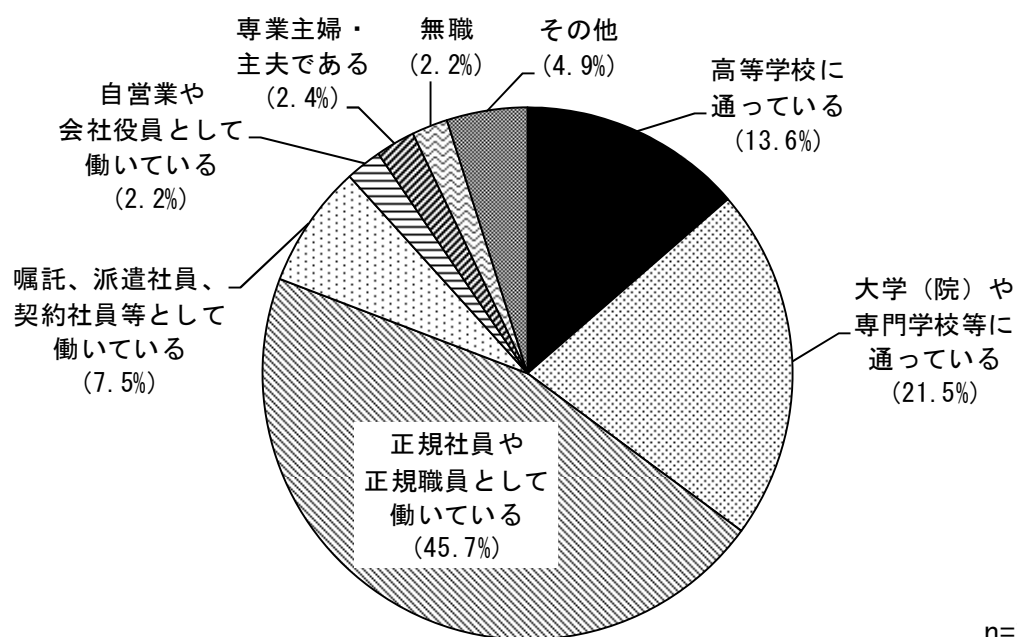


第5章 若者向けアンケートの結果

(1) 若者の属性【問10】(SA)

所属を聞いたところ、「正規社員や正規職員として働いている」が45.7%で最も高く、次いで「大学(院)や専門学校等に通っている」が21.5%、「高等学校に通っている」が13.6%となっている。

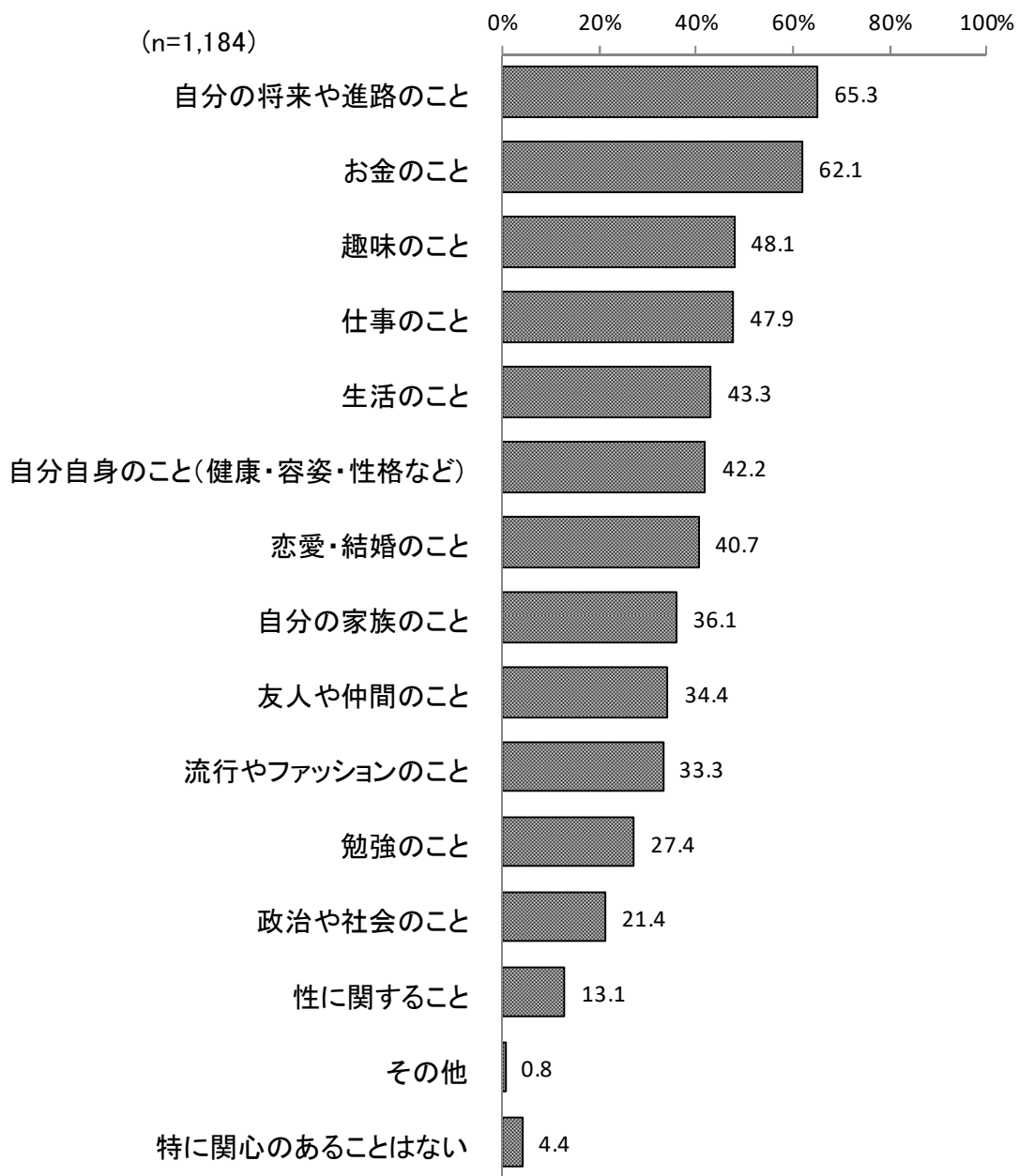
【図表 5-1】所属等



(2) 現在の関心ごと【問8】(MA)

現在の関心ごとを複数回答で聞いたところ、「自分の将来や進路のこと」が65.3%と最も高く、次いで「お金のこと」が62.1%、「趣味のこと」が48.1%となっている。

【図表 5-2】現在の関心ごと（複数回答）

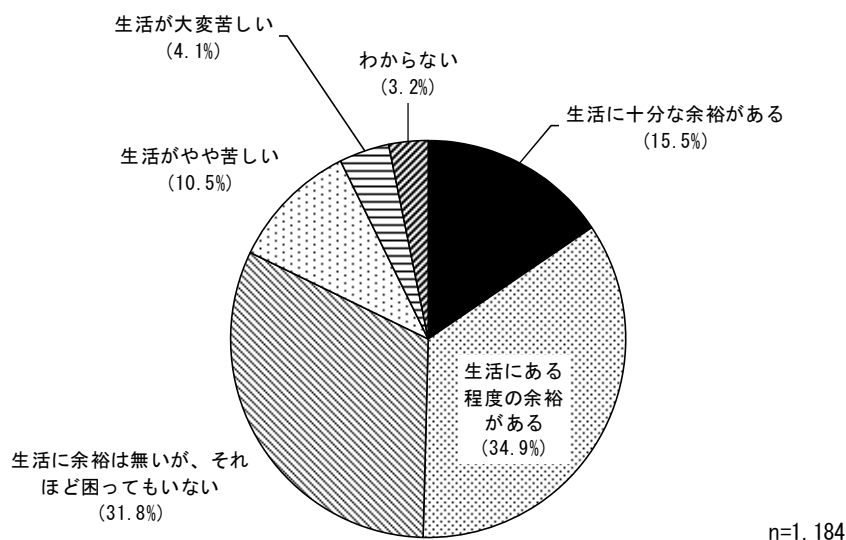


(3) 経済的な生活状況

ア 現在の経済的な生活状況をどのように感じているか【問9-1】(SA)

現在の経済的な生活状況をどのように感じているかを聞いたところ、「生活に十分な余裕がある」(15.5%)と「生活にある程度の余裕がある」(34.9%)を足し合わせた割合が50.4%、「生活に余裕はないが、それほど困ってはいもない」が31.8%、「生活がやや苦しい」(10.5%)と「生活が大変苦しい」(4.1%)を足し合わせた割合が14.6%となっている。

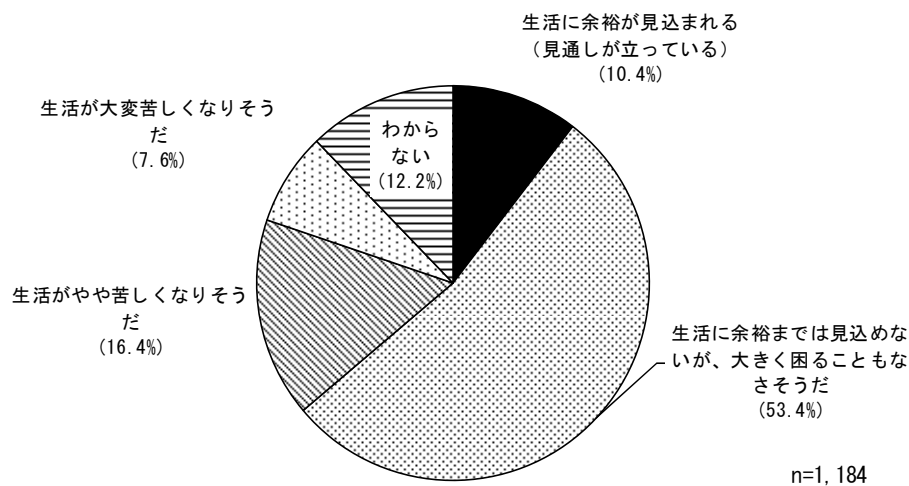
【図表 5-3】現在の経済的な生活状況をどのように感じているか



イ 将来(5～10年後)の経済的な生活状況をどのように感じるか【問9-②】(SA)

将来(5～10年後)の経済的な生活状況をどのように感じるかを聞いたところ、「生活に余裕が見込まれる(見通しが立っている)」が10.4%、「生活に余裕までは見込めないが、大きく困ることもなさそう」が53.4%、「生活がやや苦しくなりそう」(16.4%)と「生活が大変苦しくなりそう」(7.6%)を合わせた割合が24.0%となっている。

【図表 5-4】将来(5～10年後)の経済的な生活状況をどのように感じるか

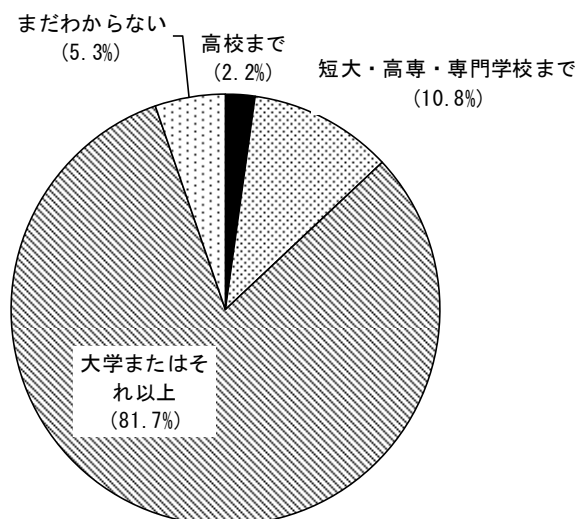


(4) 進学に関する希望

ア 将来どの学校まで行きたい(卒業したい)か【問 10-2】(SA)

「高等学校に通っている」または「大学(院)や専門学校等に通っている」と回答した方に、将来どの学校まで行きたい(卒業したい)かを聞いたところ、「大学またはそれ以上」が81.7%で最も高く、次いで「短大・高専・専門学校まで」が10.8%、「まだわからない」が5.3%となっている。

【図表 5-5】 将来どの学校まで行きたい(卒業したい)か

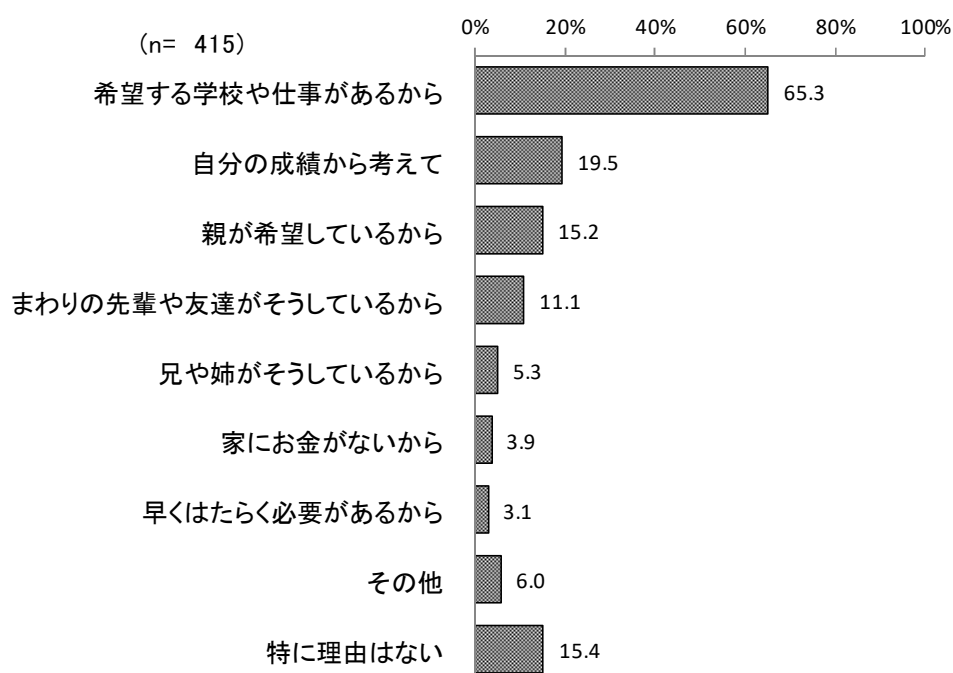


n= 415

イ 進学を希望する理由等【問 10-3】(MA)

「高等学校に通っている」または「大学(院)や専門学校等に通っている」と回答した方に、進学希望の理由を聞いたところ、「希望する学校や仕事があるから」が65.3%で最も高く、次いで「自分の成績から考えて」が19.5%、「特に理由はない」が15.4%となっている。

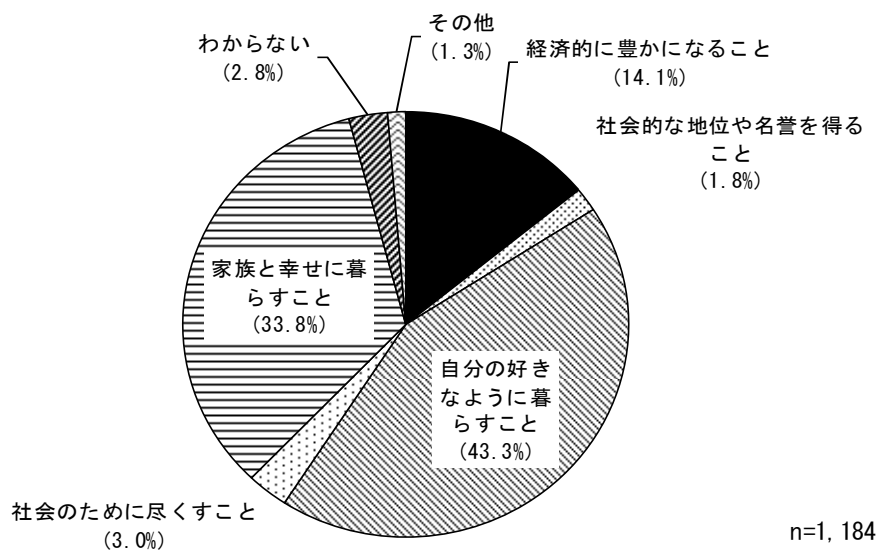
【図表 5-6】 進学希望の理由(複数回答)



(5) 理想とする生き方【問13】(SA)

理想とする生き方を聞いたところ、「自分の好きなように暮らすこと」が43.3%で最も高く、次いで「家族と幸せに暮らすこと」が33.8%、「経済的に豊かになること」が14.1%となっている。

【図表 5-7】理想とする生き方



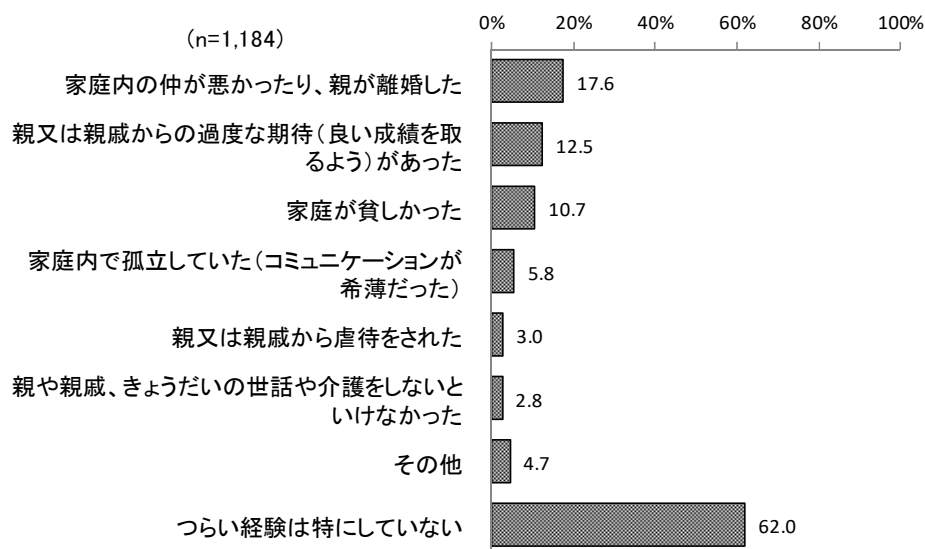
(6) つらい経験

ア 家族間・家庭でのつらい経験【問 14-1】(MA)

家族・家庭でのつらい経験を複数回答で聞いたところ、「つらい経験は特にしていない」が62.0%で最も高くなっている。

つらい経験の内容では「家庭内の仲が悪かったり、親が離婚した」が17.6%で最も高く、次いで「親又は親戚からの過度な期待(よい成績を取るよう)があった」が12.5%、「家庭が貧しかった」が10.7%となっている。

【図表 5-8】 家族間・家庭でのつらい経験（複数回答）

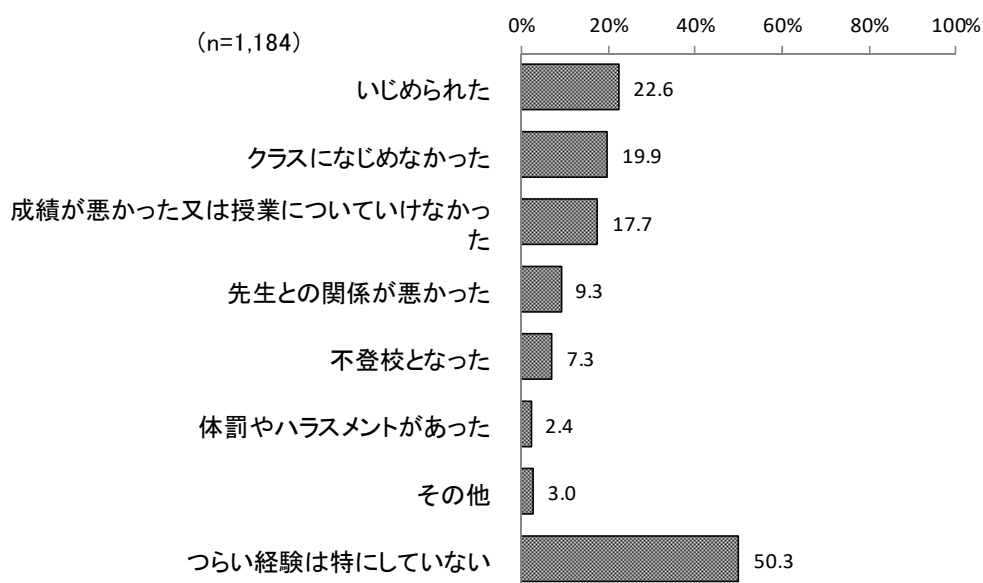


イ 学校でのつらい経験【問 14-②】(MA)

学校でのつらい経験を複数回答で聞いたところ、「つらい経験は特にしていない」が50.3%で最も高くなっている。

つらい経験の内容では「いじめられた」が22.6%で最も高く、次いで「クラスになじめなかった」が19.9%、「成績が悪かった又は授業についていけなかった」が17.7%となっている。

【図表 5-9】 学校でのつらい経験（複数回答）

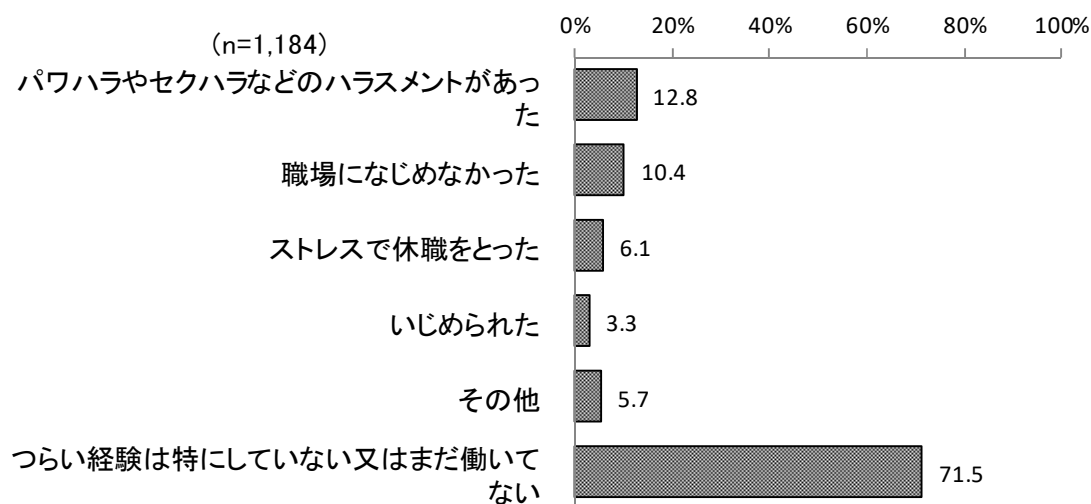


ウ 職場でのつらい経験【問 14-3】(MA)

職場でのつらい経験を複数回答で聞いたところ、「つらい経験は特にしていない又はまだ働いていない」が 71.5%で最も高くなっている。

つらい経験の内容では「パワハラやセクハラなどのハラスメントがあった」が 12.8%で最も高く、次いで「職場になじめなかった」が 10.4%、「ストレスで休職をとった」が 6.1%となっている。

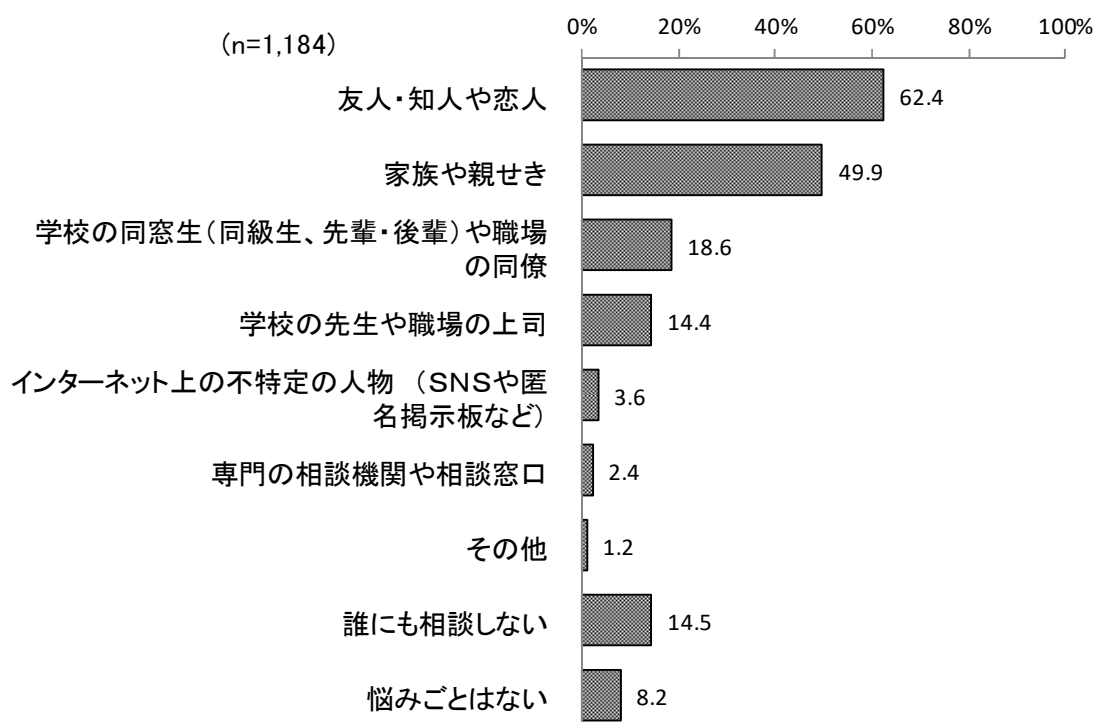
【図表 5-10】職場でのつらい経験（複数回答）



(7) 相談相手の有無【問 16】(MA)

過去 1 年間の悩みごとの相談相手を複数回答で聞いたところ、「友人・知人や恋人」が 62.4%で最も高く、次いで「家族や親せき」が 49.9%、「学校の同窓生（同級生、先輩・後輩）や職場の同僚」が 18.6%となっている。

【図表 5-11】悩みごとの相談相手の有無（複数回答）

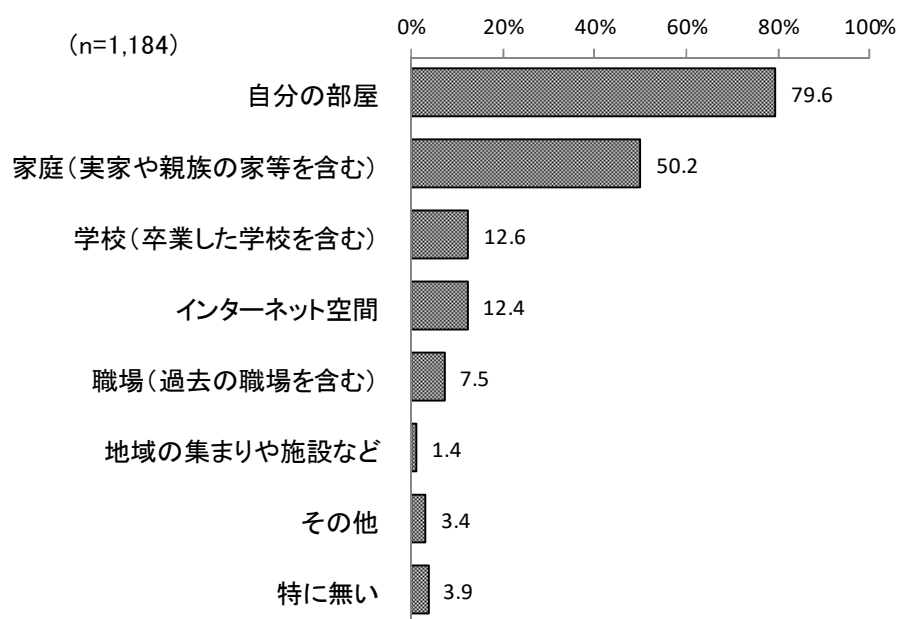


(8) 居場所

ア 落ち着ける、または自分らしくいられる居場所【問 21-①】(MA)

落ち着ける、または自分らしくいられる居場所を複数回答で聞いたところ、「自分の部屋」が 79.6% で最も高く、次いで「家庭（実家や親族の家等を含む）」が 50.2%、「学校（卒業した学校を含む）」が 12.6% となっている。

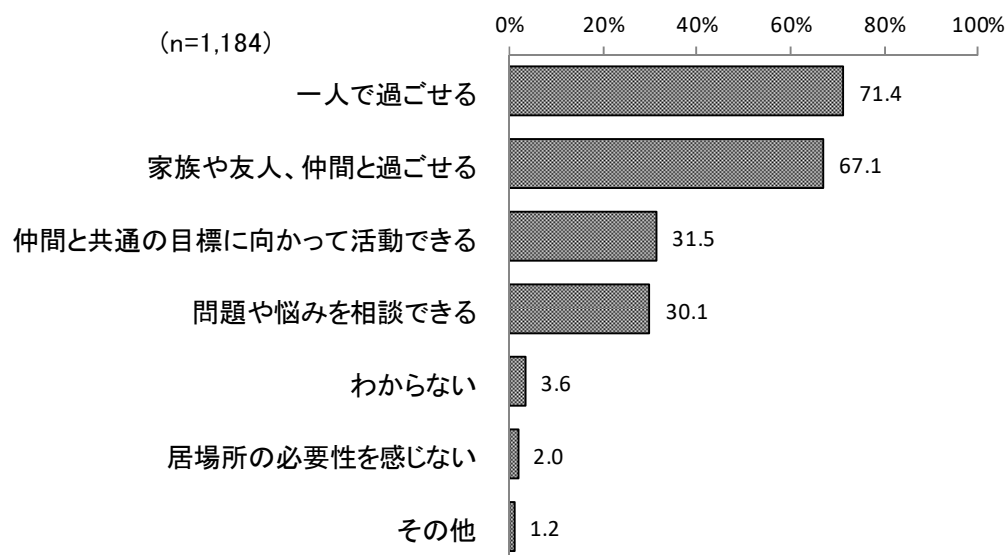
【図表 5-12】落ち着ける、または自分らしくいられる居場所（複数回答）



イ どのような居場所があればいいか【問 21-②】(MA)

どのような居場所があればいいかを複数回答で聞いたところ、「一人で過ごせる」が 71.4% で最も高く、次いで「家族や友人、仲間と過ごせる」が 67.1%、「仲間と共通の目標に向かって活動できる」が 31.5% となっている。

【図表 5-13】どのような居場所があればいいか（複数回答）



川崎市子ども・若者調査 概要版

令和３年３月

発 行：川崎市こども未来局総務部企画課

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町１番地

電 話：０４４－２００－３０２８

FAX：０４４－２００－３１９０

e-mail：45kikaku@city.kawasaki.jp
